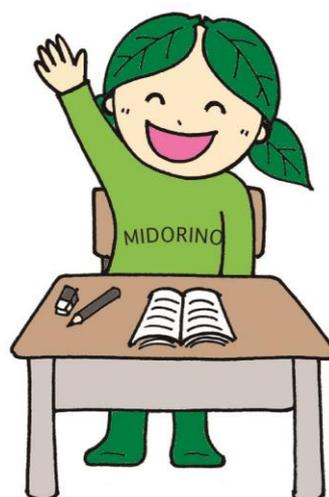


平成28年度

# 思いや考えを 深める子の育成

～主体的・対話的で深い学びを通して～



中野区立緑野小学校

# 目次

はじめに

中野区立緑野小学校長 駒崎 彰一

## I 研究の概要

- 研究主題と主題設定の理由
- 研究構想図
- 研究経過

## II 研究の実践

- ◆低学年分科会
- ◆中学年分科会
- ◆高学年分科会

## III 研究のまとめ

- 研究の成果・今後の課題

## IV 研究資料

- 中野区教育マイスター研究授業指導案

おわりに 研究に携わった教職員

## 「未来の学び」の創造を目指して

校長 駒崎 彰一

日本最先端の「新しい学び」を創造したいという思いから、「チーム緑野2016」の実践研究がスタートしました。

これからの時代に生きる子供たちに必要な資質・能力の育成を図るために、本質的な学びのイノベーション「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善への挑戦が始まりました。前例もなく手探りの状態ではありましたが「チーム緑野」の創意工夫、そして試行錯誤を繰り返しての授業実践を積み重ねてきました。

18世紀後半に綿織物の生産における様々な技術革新、そして蒸気機関の開発による動力の刷新、これによる工場制機械工業の進展によって「社会構造の変革」が起こった「第1次産業革命」、そして19世紀に入ると石油と電力の活用による「第2次産業革命」で大量生産・大量輸送の社会となり、さらに、いま、私たちが生きる現代は、ICTの発展と生産の自動化などで産業構造が変化する「第3次産業革命」の時代であると言われております。

まもなく到来すると言われる「第4次産業革命」とは？

「IoT」すべてのモノがインターネットでつながり制御され、「AI」によって効率的な判断がされる世界になります。「AI」と言われる「コンピュータの知能」は人間を超えていくと推測されており、「コンピュータに任せられるものはどんどん任せて効率化を図り、人間自身は自らが得意な分野で力を発揮する。」そんな「第4次産業革命」が、ここ数年以内にはやってくると言われています。

人間が得意な分野、それは「主体的」に物事を考えること。そして、多様なバックグラウンドをもつ同僚や取引先、顧客等に自分の考えを分かりやすく伝え、文化的・歴史的なバックグラウンドに由来する価値観や特性の差異を乗り越えて、相手の立場に立って互いを理解し、さらには、そうした差異から、それぞれの強みを引き出して活用し、相乗効果を生み出して、新しい価値を生み出す「協働性」であると言われております。

これからの「第4次産業革命」の時代をたくましく生き抜く資質・能力を子供たちに身に付けさせるために、「主体性」「協働性」の育成を目指し、「主体的で対話的で深い学び」を創造する実践研究が進められてきました。

このような学びの創造を実践して見えてきたものは、学習課題「問い」の重要性、そして対話的に学ぶ「考える教材」の質と量の確保であり、これらの先にある「深い学び」の創造と新しい学習評価の構築が今後の課題であります。

この課題解決にあたり、我々教職員も「主体的」に「対話的」に「協働的」に、未来を見据えた新しい学び、いわゆる「未来の学び」を「深い実践研究」により創造していく所存です。

最後に、これまでご指導いただいた東京女子体育大学 教授 田中 洋一 先生をはじめ、ご支援、ご協力をいただきました多くの皆様に感謝を申し上げます。

# I 研究の概要

## ○研究主題

### 思いや考えを深める子の育成

～主体的で・対話的な学びを通して～

## ○研究主題設定の理由

現代の私たちを取り巻く社会は複雑である。国際化、情報化が急速に広がり、特に情報通信技術（ICT）の開発や進歩により、世界のあらゆる情報が瞬時に手に入るようになった。そのような中では、自分に必要とする情報を選択し、正しく理解して判断し、適応する能力が必要になっている。

学校教育においても、次期学習指導要領改訂に向けた指針が示され、「何を知っているか、何ができるか」とともに、「知っていること・できることをどう使うか」、そして「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という3つの柱の資質・能力を具体的な教育活動を通して育てていくことが求められている。これは、現行の学習指導要領の下で取り組んでいるように、習得した基礎的な知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などを育て、主体的に学習に取り組む態度を育むことの延長線上にあると言えよう。

本校では、平成25年度から「思いや考えを深める子の育成」をテーマに掲げて研究に取り組んできた。昨年度は、国語科の「読むこと」の単元を取り上げ自分の思いや考えをもちながら文章を読み進める能力と態度を養うこと。そして、自分の思いや考えを発表させ交流させることで、自らの考えをより深く、より広く形成していく能力の育成を目指した。特に重点を置いてきたのは、児童自らが「考えてみたい」「取り組んでみたい」と思うような、魅力的な学習課題、児童が多様な考えをもてる学習課題を設定することである。書かれていることを正しく理解するだけではなく、登場人物の生き方や考え方に対する評価や批評を持ちながら読むような課題（文学）、書かれている内容を評価・選択したり、自分の考えを整理したりしながら読むといった課題（説明文・評論文など）を設定した。このような課題は、児童に「考えさせる」「感じさせる」ことを促し、児童は自分の考えをもとと主体的・能動的に授業と関わるようになった。そして、「考えたこと」「感じたこと」を交流しあうことで、考えが広がったり、深くなったりすることにつながった。

今年度は、昨年度までの成果を踏まえ、国語科「読むこと」の授業を中心として、思考力を育む授業の検証とさらなる改善を進めることにした。また、子どもたちの思考力を育てる授業を他教科にも広げていけるようにしたいと考えた。そして、授業改善の視点として、これからの学びの本質として重要視されてきている「主体的、対話的で深い学び」を、副主題として設定した。自分ひとりで解決できる範囲を少し超えた課題に出会ったとき、「どうやったらいいのだろう」とつまづくことが、児童の学びの始まりである。そのつまづきを克服するために、友だちや教師、書物、資料などと対話し、その手助けを得ながら課題を解決する。そのような学びの姿を通して、思いや考えを深めていく児童を育てていくことをめざして、この研究主題を設定した。

## 研究構想図

### 中野区・都・国の重点的な取組

- ◆生きる力の育成
- ◆言語活動の重視
- ◆グローバル人材の育成

### 学校教育目標

- すすんで学び 表現する子（学び合う子）【重点目標】
- 思いやりをもって 行動する子（かかわり合う子）
- 明るく元気に 運動する子（きたえ合う子）

### 保護者の願い

- ◆あいさつや話をすすんでできる子
- ◆自分の気持ちや行動などを言葉で説明できる子

### 研究主題

**思いや考えを深める子の育成**  
～主体的・対話的で深い学びを通して～

### 目指す児童像

**自分の考えをもち、思いや考えを深める子**

### 研究仮説

- 国語科の「読むこと」を中心として、学習課題の設定やその解決に向けた主体的・対話的な学びの過程を工夫することで、考えを形成したり表現したりさせることができるであろう。

### 研究の内容

## 思いや考えを深める子（学びの深化）

● 思考を深める課題の設定

主体的・対話的な  
学びのスタイル

- ・ 課題（問題）追及をめざす学びの過程
- ・ 二人組・四人組で話し合いのある学びの過程

● 思考を深める手だて

活用できる情報の整理

思考を深める活動

発問の工夫

子供の考えの取り上げ方

評価

**思いや考えをもつ子**

国語科の「読むこと」を中心とした授業改善

- どんな知識・技能を使って、どう思考させるのか、学習課題設定のための教材分析。
- 読みの3段階を意識した課題の設定と発問の吟味。
- 交流活動の活性化。

## ○研究経過

日 程	研究形態	内 容
6月17日(金)	研究授業①	低学年分科会研究授業・協議会 第1学年 授業者：瀬口 有見子 教諭 「くちばし」
7月20日(水)	研究授業②	中学年分科会研究授業・協議会 第4学年 授業者：田尻 佑樹 教諭 「動いて、考えて、また動く」
7月21日(木)	全体会	本年度の研究について 研究をすすめていくにあたって
8月31日(水)	全体会	「主体的・対話的な学び」の実現に向けて 駒崎 彰一 校長 A授業に向けた授業づくりの検討
9月28日(水)	研究授業③	専科分科会研究授業・協議会 第6学年 授業者：北山 広美 教諭 「展覧会の絵をイメージした音楽を作ろう」
10月 4日(火)	研究授業④	低学年分科会研究授業・協議会 第2学年 授業者：川西 雄輝 教諭 「音読げきをしよう」 講師：田中 洋一 先生
11月 8日(火)	研究授業⑤	中学年分科会研究授業・協議会 第3学年 授業者：吉田 智美 教諭 「説明の工夫について話し合おう」 講師：田中 洋一 先生
11月28日(月)	研究授業⑥	高学年分科会研究授業・協議会 第5学年 授業者：見米 美喜子 主任教諭 「器械運動 跳び箱運動」
11月30日(金)	研究授業⑦	高学年分科会研究授業・協議会 第6学年 授業者：安藤 亨 主任教諭 「器械運動 跳び箱運動」 講師：田中 洋一 先生
1月24日(火)	研究授業 (マイスター)	中野区教育マイスター研究授業・協議会 第5学年 授業者：吉田 真美 主任教諭 「環境問題について自分の意見をもとう」 講師：田中 洋一 先生
2月 1日(水)	研究部会	今年度の成果と課題

## II 研究の実践

# 低学年分科会

### 研究推進委員 ○

瀬口 有美子

三井田 学

吉原 あつ子

川西 雄輝

○ 渡邊 朱実

野上 悠

北山 広美

### 1 A授業指導演

第2学年 国語科指導演

「音読劇をしよう」

### 2 B授業指導演

第1学年 国語科指導演

「くちばし」

音楽科指導演

「展覧会の絵をイメージした音楽を作ろう」

# 低学年分科会 A 授業（第 2 学年）

## 国語科学習指導案

平成 28 年 10 月 4 日(火) 第 5 校時

2 年 1 組 児童数 28 名

授業者 教諭 川西 雄輝

### 1 単元名 音読劇をしよう

教材名 「お手紙」(光村図書 2 年)

### 2 単元の目標

◎場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることができる。

○手紙を書く楽しさを知り、物語の登場人物に言ってあげたいことを手紙に書くことができる。

・物語を読み、自分の経験と結び付けて、感想を発表し合うことができる。

### 3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"><li>・手紙について考え、「お手紙」を読んで感じた事を進んで発表しようとしている。</li><li>・登場人物の言動や気持ちを考え、楽しく音読している。</li><li>・登場人物へ、自分の気持ちを含めたお手紙を書いている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・根拠となる言葉をあげ、だれの会話文であるかを確認しながら、音読している。</li><li>・がまくんとかえるくんの言動から、気持ちを想像しながら読んでいる。</li><li>・かえるくんの行動を順序よく読み取り、場面の様子を読み取っている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・主語と述語の関係を理解している。</li></ul>

### 4 単元について

本教材は、二人の登場人物の行動を中心に、場所や時間の移り変わりがはっきりと描かれた作品である。物語の展開に沿って、「がまくん」と「かえるくん」の行動がどう変わっていくかを読み取らせたい。また、お手紙を待つ二つの場面が、対照的な挿絵と叙述で描かれているところから、比較・対照させながら細かい点に注意して作品を味わう指導も合わせて行い、物語の読みの方法にも触れたい作品である。

また、本教材は、「〇〇が言いました。」を除くと 7 割以上が会話文からなる作品である。音読と簡単な動作を付けて表現する「音読劇をしよう」という言語活動を設定することで、二人の心情と心の通い合いを読み取ることにつなげたい。物語の場面を想像し、登場人物の心の動きを自分のこととして捉え、声に出して演じる活動は、他者への共感性を育てる。また、行動が生まれる背景にどんな心情があるのかと洞察する力を育てることにもつながるといえる。

## 5 児童の学習経験

登場人物の行動を中心に、場面の様子を想像する学習は1年生から重ねてきている。本教材は会話が多用され、登場人物の心情が表されている。行動と会話から場面の様子を想像する読みの力をつけていきたい。

音読の経験は、2年生上巻「ふきのとう」で、人物の様子やしていることに気をつけて読み方を工夫する役割読みを経験した。本単元では、声だけでなく、簡単な体の動きを加えて表現する学習を取り入れたい。

## 6 研究主題の捉えと手立て

### 研究主題 思いや考えを深める子の育成

目指す児童像（深い学びの姿）

登場人物の行動から気持ちを想像し、自分と比べて考えることができる子

#### （1）主体的学びのために

○単元のめあてを「音読劇をしよう」と設定した。児童は、これまでの音読発表会の経験から、何をどのように学んでいけば音読劇につながっていくのか、見通しをもつことができる。

・場面に分ける。 ・役割を決める。 ・会話文の読み方を工夫する。（どんな気持ちで言っているのかな） ・どんな動きをしたらよいか考える。（どんな様子かな）などが、児童から出されると予想できる。これらを学習活動に取り入れることで、児童が目的をもって主体的に文章を読み進め、「読むこと」の指導目標に迫ることができると思う。

#### （2）対話的学びのために

○対照的に描かれている2枚の挿絵を比べて違いを見つける、二人の登場人物になったつもりでそれぞれの気持ちの違いを比べる、登場人物の行動に対して自分だったらどうするか考えるなどの活動を取り入れ、学習材・友達・教師との交流を通して、ものの見方や考え方を広げ深めるようにする。

## 7 単元計画(全12時間)

次	時	ねらい (○) と主な学習活動 (●)	手立て(*)研究主題に迫る手立て(☆) 期待される児童の姿□ 評価・評価方法(◇)
第一次	1	<p>○楽しんで物語を読み、それぞれの感想をもつことができる。</p> <p>●題名から想像する。</p> <p>●「お手紙」の範読を聞く。</p> <p>●初発の感想を交流する。</p>	<p>・がまくんは、お手紙をもらったことがなくてかわいそうだな。</p> <p>・ふたりともしあわせな気持ちになったからよかったよ。</p>
	2	<p>○楽しい音読劇にするために学習の見通しをもつことができる。</p> <p>●単元のめあてを確認し、学習の計画を立てる。</p>	<p>◇物語に興味をもって範読を聞き、自分なりの感想をもっている。(関：観察、ワークシート)</p> <p>*音読劇とはどういうものか知らせる。</p> <p>*音読劇をするために、どんなことに気を付けたらよいか考えさせる。</p> <p>☆毎時間の学習のめあてを示した計画表を示す。</p> <p>◇学習の見通しをもち、これからの学習に興味をもとうとしている。(関：観察)</p>
	3	<p>○場面ごとに人物の行動と会話を整理することができる。</p> <p>●登場人物を確認する。</p> <p>●誰の言葉かを考えながら色分けをして、役割読みをする。</p> <p>●挿絵を並べ替えながら、場面分けをする。</p>	<p>*がまくんの会話文の上には、オレンジの丸を、かえるくんの会話文の上には緑色の丸をシールなどで色分けさせる。</p> <p>*9枚の挿絵を並び変えながら、あらすじをとらえさせる。</p> <p>*場所や時間の変化を手がかりに、5場面に分けられることを捉えさせる。</p> <p>◇場面の移り変わりや人物の行動や会話が分かり、内容の大体を捉えている。(読：発言、ワークシート)</p>
第二次	4	<p>○がまくんのお手紙を待つ悲しい気持ちとかえるくんの友達を思いやる優しい気もちを読み取ることができる。(一場面)</p> <p>●かなしい気分で、玄関に腰を下ろしているふたりの気持ちを想像する。</p> <p>●どうしてふたりともかなしい気分なのかを考える。</p> <p>●役割読みをする。</p>	<p>☆挿絵に表れている二人の表情・動作の違いも手掛かりにして、二人の気持ちを想像させる。</p> <p>☆自分の考えをもとに、二人組で話し合い、考えを深めさせる。</p> <p>・いちどもお手紙をもらったことがない。(がまくん)</p> <p>・だれもぼくに手紙をくれない。(がまくん)</p> <p>・がまくんが悲しんでいるのを見ると、ぼくもかなしい。(かえるくん)</p> <p>・がまくんに手紙をあげなかったから、がまくんを悲しませてしまった。(かえるくん)</p> <p>◇登場人物の気持ちを想像している。(読：発言、ワークシート、音読)</p>

5	<p>○かえるくんの、友達を思いやる気持ちを、読み取ることができる。(二場面)</p> <p>●しなくちゃいけないことはどんなことなのか考える。</p> <p>●役割読みをする。</p>	<p>*かえるくんの急いでいる様子や行動から気持ちを想像させる。</p> <div data-bbox="895 197 1490 398" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がまくんに手紙を書こう。</li> <li>・がまくんを早くよこばせたい。</li> <li>・がまくんにはひみつにしておきたい。</li> <li>・ゆうびんやさんに早くわたさなくちゃ。</li> </ul> </div>
6	<p>○二人の気持ちがだんだん強くなっていく様子を比べながら読むことができる(三場面前半)</p> <p>●かえるくんは、どんな気持ちで、がまくんに話しかけているのか考える。</p> <p>●がまくんは、どんな気持ちでかえるくんの話を聞いているのか考える。</p> <p>●役割読みをする。</p>	<p>*二人の会話と行動を抜き出したシートに、つぶやきを書き加えさせる。</p> <p>*それぞれの思いが強まっていることをマークの大ききで示す。</p> <div data-bbox="895 674 1490 1032" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(かえるくん)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早くこないかな。・まだかな。・ああおそいな。</li> <li>・がまくんが元気になってほしい。</li> <li>・よろこんでほしい</li> </ul> <p>(がまくん)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お手紙を待つのにつかれた。もういやだ。</li> <li>・どうせ手紙は来ないよ。もうあきらめているよ。</li> </ul> </div> <p>◇二人の気持ちを比べながら、音読に生かしている。(読：発言、ワークシート、音読)</p>
7	<p>○かえるくんの思いとそれに気付いたがまくんの気持ちを読みとることができる。(三場面後半)</p> <p>●かえるくんは、どんな気持ちで、がまくんに話しかけているのか考える。</p> <p>●がまくんは、どんな気持ちでかえるくんの話を聞いているのか考える。</p> <p>●役割読みをする。</p>	<p>*二人の会話と行動を抜き出したシートに、つぶやきを書き加えさせる。</p> <div data-bbox="895 1361 1490 1720" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(かえるくん)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がまくんにわかってほしい。</li> <li>・こころをこめて書いたんだ。</li> <li>・もうだまっていられない。</li> </ul> <p>(がまくん)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もうおこった。→びっくり。</li> <li>・うれしい。しあわせ。ありがとう。</li> </ul> </div> <p>◇二人の気持ちを比べながら、音読に生かしている。(読：ワークシート、音読)</p>
8 本 時	<p>○がまくんとかえるくんの「幸せな気持ち」について考えることができる。(四場面)</p> <p>●しあわせな気持ちで玄関にすわっているふたりの気持ちを想像する。</p>	<p>☆挿絵に表れている二人の表情・動作の違いも手掛かりにして、二人の気持ちを想像させる。</p> <p>☆自分の考えをもとに、二人組で話し合い、考えを深めさせる。</p>

第三次		<p>●ふたりは、どんなことが幸せなのか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・手紙を出してくれる親友がいることがしあわせ。(がまくん)</p> <p>・ぼく親友と言ってくれるかえるくんがいることがしあわせ(がまくん)</p> <p>・ぼくの手紙を心からよろこんでくれる親友がいることがしあわせ。(かえるくん)</p> </div> <p>◇かえるくんとがまくんの『幸せな気持ち』が、人と人とのやさしいかわりから生まれていることに気付いている。(読：発言、ワークシート)</p>
	<p>9 ○音読したい部分を決め、音読の工夫などを考えることができる。</p> <p>●音読したい部分を書き写す。</p> <p>●読み方や動きを書き込む。</p> <p>●音読の練習をする。</p>	<p>*「読み方」と「動き」の観点で考えさせる。</p> <p>◇音読したい部分を決め、ノートに書き写して、音読の工夫などを考えている。(読：音読、ワークシート)</p>
	<p>10 ○これまでの学習した内容を生かして、音読劇を発表したり、感想を伝えあったりすることができる。</p> <p>●グループごとに発表する。</p> <p>●読み方と動きについて感想を書く。</p> <p>●感想を交流する。</p>	<p>◇これまで学習した内容を生かして、音読劇を発表している。(読：音読、ワークシート)</p> <p>友達の発表を聞いて、「読み方」と「動き」について、感想を伝えあっている。(読：発言、ワークシート)</p>
	<p>11 ○登場人物に向けて手紙で伝えたいことを考え、簡単な構成の手紙を書くことができる。</p> <p>●かたつむりくんの手紙を頼んだことのよさを考える。</p> <p>●登場人物の誰かに手紙を書く。</p> <p>●書いた手紙を発表しあう。</p>	<p>◇これまでに学習したことをもとにして、登場人物を選んで手紙を書いている。(読：ワークシート)</p>
	<p>12 ○アーノルド＝ローベルのお話を、興味をもって聞き、感想をもつことができる。</p> <p>●かえるくんとがまくんが出てくるお話の読み聞かせを聞く。</p> <p>●気に入ったお話をカードに書く。</p>	<p>*挿絵のカラーコピーを用意し、提示しながら読み聞かせる。</p> <p>◇アーノルド＝ローベルの作品に興味をもち、話を聞いたり、自分で読もうとしたりしている。(読：観察 カード)</p>

## 8 本時 (8/12)

### (1) 目標

・がまくんとかえるくんの気持ちを想像することができる。

### (2) 展開

時間	学習内容・学習活動	手立て(*)研究主題に迫る手立て(☆) 期待される児童の姿(□) 評価・評価方法(◇)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前時の学習を振り返る。</li> <li>●本時の学習するところを音読する。</li> <li>●ふたりはどんな気持ちなのかを読み取り、本時のめあてをつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*前時の学習までを教室掲示を使って振り返る。</li> <li>☆悲しい気持ちの挿絵を見る。</li> <li>*がまくんとかえるくんの気持ちを考えながら音読をする。</li> <li>・根拠となる叙述に線を引く。</li> </ul>
展開 30分	<p>ふたりは、どうしてしあわせなのかを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●まだ手紙をもらっていないのに、なぜ、ともしあわせなのかを考える。</li> <li>・個で考える。</li> <li>・ペアで交流する。</li> <li>・全体で交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆教科書の挿絵を使って、吹き出しにどんなことを考えているかを書く。(ワークシート)</li> </ul>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●幸せの理由を考える。</li> <li>・個で考える</li> <li>・ペアで考える。</li> <li>・全体で考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*手紙のどんな内容がしあわせなのだろうか。(補助発問)</li> <li>*その手紙の内容を知っていて、なぜともしあわせなのだろうか。(補助発問)</li> <li>☆1場面の挿絵と比べて、違いはあるだろうか。(補助発問)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめて手紙がもらえるからうれしいな。(がまくん)</li> <li>・かえるくんがぼくを親友と言ってくれるなんてうれしいな。(がまくん)</li> <li>・がまくんがよろこんでくれてうれしい。(かえるくん)</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて手紙が届くことを知った。(がまくん)</li> <li>・自分を想ってくれる親友がいることに気付いた。(がまくん)</li> <li>・がまくんがとても喜んでくれた。(かえるくん)</li> <li>・自分の手紙を心から喜んでくれる親友がいることを知った。(かえるくん)</li> </ul>	
	<p>◇ふたりの気持ちの違いを考えて、記述することができている。[ワークシート]</p> <p>B:手紙をもらえることが幸せ (がまくん) がまくんが喜んでくれたことが幸せ (かえるくん)</p> <p>A:手紙を出してくれる親友がいることが幸せ (がまくん) 手紙を喜んでくれる親友がいることが幸せ。(かえるくん)</p> <p>C:吹き出しに書いた言葉の中から、選び出すよう助言する。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本時のふりかえりをし、次時の学習について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆振り返りを書き、次時には、登場人物に手紙を書くことを知り、見通しをもたせる。</li> </ul>



## <協議会記録>

### 分科会提案

#### ○視点1

本時の課題「ふたりは、どうしてしあわせなのだろうか」は、研究主題に迫る課題としてふさわしいものであったか。

#### ○視点2

しあわせの理由を問う発問は、児童の考えを深めるために適切であったか。

### 授業者自評

- ・子供達が考えたいくなるような課題であった。しかし、前時の学習が根強く残っていたので考えが偏ってしまった。
- ・しあわせの理由を問う発問も、既習したものと同じような内容になってしまった。中心発問に至るまでの補助発問の重要性を学んだ。

### 協議

#### ●授業者・分科会の意見      ○参観者の意見

##### 【視点1について】

○ねらい・課題・評価のつながりはどのような意図であったのか。

●「幸せ」という気持ちだけではなく、本質的なその「幸せ」の中身に迫りたかった。それに迫ってワークシートに書くことができたらA評価と考えていた。

○評価は適切であったか。どこまで書くことができればAなのか。

●ねらいとしている考えに到達する発問ができなかった。授業者としては、そこを目指していた。

○発問の形。

●前時と似ている発問の中身になってしまった。

○挿絵を押さえた後での主発問の方がよい。

●次回に生かそうと思う。

○親友に対する評価はどう考えていたのか。

●親友の中身、手紙をくれる存在・手紙と一緒に待ってくれる存在をおさえたかった。そこまで読み深めてほしいと考えていた。

##### 【視点2について】

○発問の形    ワークシートの活動①②のちがいが

●気持ちの想像から中身に深めたかった。

##### 【その他】

◎他の展開について

- ・ただ交換するのではなく、読んで伝えて(話して聞かせて)交流することが対話である。
- ・①手紙をどんな気持ちでまっているか。 ②それぞれ何が幸せかを考える。
- ・絵を比べながら対話させてもよい。
- ・①幸せな気持ちを他の言葉で言うと・・・考える時間をとったほうがよい。
- ・理由を考えさせるために、手立てをとった方がよい。
- ・読む楽しさのある授業のために、2人の気持ちを考えながら音読につなげて音読発表会にもって行ってはどうか。

- ・対話的な学びの形の工夫・・・絵を見ながら2人で見るなどの工夫があってもよい。
- ・子供どうしのやりとりで書いたことを伝え合うとよい・・・書いたことを読みあって伝えたり、同じ・違うとくらべながら聞いたりする。
- ・板書とワークシートがつながるとよい。同じ表現をした方が、子供たちも分かりやすい。

## <指導・講評>

東京女子体育大学教授 学長補佐  
田中 洋一 先生

- ・「お手紙」は1年生に掲載している教科書もあるが、深みのある作品なので、2年生で学習する方が望ましい。
- ・子供の発言の取り上げ方等が上手であった。
- ・物語の読み(段階)
  - 第1段階の読み ①書いてあることを正しく読む(あらすじ等をとらえる)
  - 第2段階の読み ②書いてないことでも前後の表現から読み取る。(誰が読んでもそうとらえられるもの)
  - ③想像力を働かせたり、経験を重ねたりして読む。(評価、解釈等)

今回の授業は②と③の間であった。

第三段階の読みを引き出す授業にするためには、第1・2の読みをしっかりとすることが大切。

音読のために、セリフをシールで区別することは良かった。低学年は音読が重要である。

## <成果と課題>

### (1) 主体的な学習について

- ・課題としてよい。
    - 子供たちに考えることを明確な指示があつてよい。
    - 発問「手紙が来ることも中身も分かっていたのに、どうして4日間も2人で楽しそうに待っているのか考えよう。」
    - 子供たちの読みが深まる。
  - ・2人の関係性にたどりつくようにポイントを押さえる。
- がまくんが欲しかったのは、お手紙のやりとりができるような心が通じる友達である。

### (2) 対話的な学習について

- ・個で考え、数人のグループで話し、全体で考える。そしてまた個に戻る 것이よい。
- ・子供達の考えを板書する際には、ワークシートと同じように書く方がよい。文末表現も合わせたほうがよい。

# 低学年分科会 B 授業（第 1 学年）

## 国語科学習指導案

平成 28 年 6 月 17 日（金）5 校時

1 年 1 組 授業者 瀬口 有見子

1 教材名 「くちばし」（光村図書 1 年）

### 2 思考を深める課題の設定

問いかけの文（「これは、～でしょう。」）と、答えの文（「これは、～です。」）を踏まえながら、自分の経験や知識とを結びつけて文を書き、説明する。

### 3 本時のねらい

自分で選んだ動物について、「問い」と「答え」の文を書いて説明する。

### 4 展開（6 / 7）

学習活動	手だて（*） 思考を深める手だて（☆） 期待される児童の姿 <input type="checkbox"/>								
1 前時の学習内容を振り返る。 2 学習課題をつかむ。	* 説明的文章の話型（「これは、～でしょう。」「これは、～です。」）を確認する。								
どうぶつくいずを つくろう。									
3 動物の写真（うさぎの耳）をみて、「どうぶつくいず」の作り方を学級全体で確認する。	* 問いと答え、説明的文章の書き方を全体でおさえ、クイズの出し方、答え方を確認する。 ☆ 副教材として、学級全体用に 1 つ、個別用に 2 つ、写真を提示する。								
4 動物の写真（2 つ）をみて、選び、「どうぶつくいず」を 1 人ずつ書く。	* 活動がはやい児童には、複数クイズを作成させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"><ul style="list-style-type: none"><li>・ おおきくて、とがったつのです。これは、なんのつのですしょう。→これは、かぶとむしのつのです。かぶとむしは、おおきなつので、たたかいます。</li><li>・ おおきくて、おれんじいろのあしです。これは、なんのあしでしょう。→これは、かものあしです。かもは、おおきなあしで、みずをかいてすすみます。</li></ul></div>								
6 学習のまとめをする。	<table border="1" style="width: 100%;"><thead><tr><th colspan="2" style="text-align: center;">評価規準</th></tr></thead><tbody><tr><td style="width: 10%;">A</td><td>副教材（写真）についての経験や知識を交えながら、説明的文章の構成を理解して書いている。</td></tr><tr><td>B</td><td>説明的文章の構成を理解して書いている。</td></tr><tr><td></td><td>（B に到達するための個に応じた手立て） ☆ 動物の写真を選び、教師と特徴について対話し、書かせる。</td></tr></tbody></table>	評価規準		A	副教材（写真）についての経験や知識を交えながら、説明的文章の構成を理解して書いている。	B	説明的文章の構成を理解して書いている。		（B に到達するための個に応じた手立て） ☆ 動物の写真を選び、教師と特徴について対話し、書かせる。
評価規準									
A	副教材（写真）についての経験や知識を交えながら、説明的文章の構成を理解して書いている。								
B	説明的文章の構成を理解して書いている。								
	（B に到達するための個に応じた手立て） ☆ 動物の写真を選び、教師と特徴について対話し、書かせる。								

## <授業を通して>●授業者の意見 ○参観者の意見

- 挨拶、挙手、発表の仕方など学習規律を意識して指導していた。
- 指導技術の向上が感じられた。
- 前時までの内容を分かりやすくまとめている。
- 板書や掲示物の字が、とても読みやすい。
- 鳥よりも身近な動物を選んだのは、考えやすい。
- 経験や知識の差を埋めるための映像、写真、図鑑を活用したのはよかった。
- 動物を選択させることによって、子供の意欲を高めた。
- 様々な資料が、児童の主体性につながっていた。
- 配慮を要する児童に、字をうすく書いてあげるなどの支援があった。
- 落ち着いた雰囲気での授業が行われていた。
  
- 説明の順序をまとめた掲示物が分かりやすかった。その色を、板書やワークシートにそろえるとなおよい。
- 導入での課題は、全体で読むに留まり提示として弱かった。ワクワク感をもっと出したい。
- ヒントの文は、形状を表す文であるから、それを明確にしたかった。(板書の例文も同様に。)
- 子供の思考は、例文に引きずられる。例文は、考え抜いたものを使用したい。
- 問題作りとしては、選んだ動物の特徴的な部分を抑えてあげたい児童がいる。
- 動物の特徴(身体の部位)をおさえたい。もはや、動物の特徴クイズという名称でもよいかもしれない。
- 絵本や図鑑は、作問において助けになるのか。情報の多さが仇となるか。難しいところであった。
- 使用する絵本や図鑑を精査し、1年生に適したものを多く用意できるとなおよかった。
- 本を活用させることは素晴らしい。うまく活用している児童がいる一方で、情報が多すぎて、何を書いたら良いのか分からない子もいた。
- 本を読み、情報を探すなかでポイントを絞れるよう指導の時間をもう少し取ればよかった。
- 作ったクイズを、これからどんな場面で活用するのか。子供たちにその見通しがあるのか。
- 互いにクイズを読みあい、出題する活動を行う。
- 書くことのレベルが高いかもしれないので、話す活動で思考につなげられるかもしれない。
- 書く活動の前に、ペアで説明をしあうなど、話す活動を入れることを考えたい。
- 学習のまとめがあるとよかった。

## <成果と課題>

### (1) 主体的な学習について

- ・クイズを作問する活動を通して、既習の学習を再構築せざるを得ない主体的な思考へと導くことができた。
- ・図鑑を活用することで、選ぶという主体的に判断をせざるを得ない場面へと導くことができた。
- ・図鑑は情報量も多いため、あらかじめページを選んでおいた中から選ばせるといった設定も考えられる。

### (2) 対話的な学習について

- ・図鑑の内容について、自然に隣人同士で、教え合いや話合いといった対話的な場面が生まれていた。
- ・できた問題を解き合う活動などの設定を通して、次回以降対話的な学習に焦点化した展開もできる。

# 音楽科学習指導案

9月28日(水)第3校時

6年1組 安藤 亨学級

授業者 北山 広美

1. 単元名 展覧会の絵をイメージした音楽を作ろう
2. 単元の目標 絵から連想される言葉を書き出し、歌詞を作ることができる。  
歌詞に合う旋律や旋律の流れを考えて作ることができる。  
和音構成音に注意しながら、音楽に合う音を選んで作ることができる。
3. 本時のねらい
  - ・タブレット(ボーカロイド)の操作方法を覚える。
  - ・音符の長さや休符の価値を知る。
  - ・「キラキラ星」の音の長さに気をつけながら、曲に合う音を選ぶことができる。

○学習内容 ・学習活動 ☆対話の場面	◇教師の働き掛け ◆評価規準(評価方法) ☆対話の評価
・今月の歌「COSMOS」を歌う。	◇音楽の授業の雰囲気をつくり、のびのびと歌わせる。
○前回作ったリズム楽譜を振り返る。 ・音高を記されていないことに気づく。 ・リズムのみが書かれていることを確認する。 ・本時のめあてを知る。	◇前回の楽譜を振り返らせる。パワーポイント リズムのみで音高が書かれていないことに気づかせる。  ◇ボーカロイドの画面を見せる。
<div style="border: 2px solid orange; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <h2 style="margin: 0;">キラキラ星を作曲しよう</h2> </div>	
○「キラキラ星」の拡大を見ながら音高と歌詞を入れていく。 ○音高を変えて入力していく。 ○音楽の流れには、様々なパターンがあることを知る。  ☆2人組で、書いたリズム譜を実際にボーカロイドに入力する。 ・作曲した「キラキラ星」を実際にボーカロイドで聴いて確認する。	◇拡大の「キラキラ星」を見ながら、キラキラ星の歌詞をまず入れる。 ◇「キラキラ星」の音高を入れていく。 ◇音高は、好きな旋律の流れで良いことと指示する。◇音の高さのコツを伝える。 ◇Cの児童への対応として、二人組の編成を考慮し、「キラキラ星」Cdurの曲の音高をそのまま使ってもよいこととする。 ◆音符の価値を理解し、リズム譜に書くことができる。<共通事項イ> ◇「キラキラ星」の作曲したものを発表させ、多様な音楽ができることやいろんな音楽があつてよいことをおさえる。
○次時の学習内容を知る。	◇次時の学習内容を伝える。

## <授業を通して>●授業者の意見 ○参観者の意見

○ふさわしい音をどのように児童に教え、活用させるのか

●聞いていて違和感がなければ可と考えた。隣同士の音はよくないことに児童は気付いていたので次回に生かしたい。

○音楽の授業展開について学ぶことができた。続きを早くやりたいという児童の声も聞かれた。高い意欲をもっているように感じた。

○「音楽づくり」の単元の計画やゴールは何か。

●ゴールは展覧会のBGMづくりである。

①歌詞になるキーワードをだす。②組み合わせで歌詞を作る。③タブレットに入れる。④音の操作を入れる。という流れで授業を作っていきたい。和音構成音を押さえながら作っていきたい。自分の歌詞にふさわしい音を選ぶ活動になる。

○今日のグループ構成の意図は何か。

●座席は教師が決めた。人間関係から決めた部分もある。3人で1台のタブレットを使用する所は難しかった。

○データを保存できるなら、お互いに創って聞きあっても良かった。

○評価が難しい。二人で作る学習だと個人で見とれない。

○音楽づくりとは何か。

●最近注目されている単元。4年生から木琴で音作りをしている。各学年での積み重ねにより今後さらに発展させていきたい。

○心地よい音をねらうのであれば、選べる音などを指定しなくてはいけないのではないかと。どこまで自由に音を選ぶことができるのか。

○歌詞が必要か。音に合わせようとすると難しくなるのではないかと。主体性の面がみえるとキラキラ星に限定しなくてもいいのではないかと。

○本時はまだ音楽づくりではなく、その事前段階である。この後本格的に音楽づくりになると複雑な協働的な作業が入ってくる。ボーカロイドのよさは、消えてしまう音は保存され活用できることである。プログラミング教育（プログラミング思考力）につながる面もあった。

## <成果と課題>

### (1) 主体的な学習について

- ・ICTを授業に取り入れたことで、児童が主体的に音楽づくりに取り組んでいた。
- ・ICTによって、本来なら消えてしまう音が残し、視覚的にわかりやすく取り組みやすいようになった。

### (2) 対話的な学習について

- ・2, 3人のグループでICTを囲んで音楽づくりに取り組んだことで、必然的に話し合いながら学習を進めることになり、対話的な学習をすることができた。
- ・グループ構成については、今後より対話的な学習になるよう配慮していく必要がある。

# 中学年分科会

研究推進委員 ○

阿久津 淳子

吉田 智美

山岡 恭子

○ 田尻 雄輝

佐藤 ひろみ

熊谷 頼子

## 1 A授業指導演

第3学年 国語科指導演

「説明の工夫について話し合おう」

## 2 B授業指導演

第4学年 国語科指導演

「筆者の意見に対して、自分の考えをもとう」

# 中学年分科会 A 授業（第3学年）

## 国語科学習指導案

平成28年11月8日(火) 第5校時

3年2組 児童数 37名

授業者 教諭 吉田 智美

1 単元名 説明の工夫について話し合おう

教材名 「すがたをかえる大豆」(光村図書 3年)

### 2 単元の目標

◎中心となる語や文を捉え、段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解することができる。

○内容を大きくまとめたり、必要などころは細かい点に注意したりしながら読むことができる。

- ・内容の中心が伝わるように音読できる。
- ・文中の語句について、国語辞典を利用して調べることができる。

### 3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・文章の内容に関心をもち、文章構成を理解しながら読もうとしている。	・中心になる文を確かめながら、説明されていることを整理している。 ・構成や具体例に注意し、整理しながら適切に内容をまとめている。 ・中心となる文や大事な言葉に気を付け、内容が伝わるように音読している。	・文章中の表現や言葉に注目し、国語辞典を使って調べている。

### 4 単元について

本教材は、大豆やその加工食品について書かれたもので、児童にも身近なものである。ただ、大豆の加工食品は、見ただけでは原料が大豆と分からないものも多く、児童にとっては、新鮮な驚きをもたらすだろう。自分の食生活や日本の食文化を見つめ直すことにつながり、食育という観点からも貴重な題材である。また、本文だけでは分かりにくい箇所を写真で理解を補っている。

### 5 児童の学習経験

「初め」「中」「終わり」でとらえる見方はくり返し学んできている。三年上巻「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」は、「中」の部分で事例を列挙した構成をとっており、本単元とスムーズにつなげることができる。ここでは更に、段落内の構造と段落相互の関係については、より高度な読みを期待したい。前期の学習から一歩進んで、各段落の中心になる文を見極め、そこから段落相互の関係をしっかり捉えられるようにしたい。

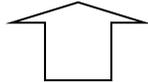
また、説明のしかたを考えるとという点では、二年下巻「しかけカードの作り方」で、写真や絵を掲示することや「まず」「次に」などの言葉を使うなどの工夫を学んでいる。

研究主題 思いや考えを深める子の育成



目指す児童像（深い学びの姿）

段落相互の関係に気づき、筆者の説明する工夫に気付くことができる子



（1）主体的学びのために

○具体物の提示

単元の導入では、実際に食品を見せてから学習に入るようにした。具体物を見ることで全くちがうすがたなのに、元々は同じ大豆からできていることに驚き、興味をもって学習に取り組めると考えた。普段の給食でも、大豆製品を探すなど実生活にも結び付けて考えるように意識づけをした。

○学習計画の提示

単元のはじめに、学習のめあてを確認し、全体の学習計画を共有した。毎時間の学習のめあてを明確にすることで、見通しをもって、主体的に学習できると考えた。また、一時間ごとに学習のふり返りをし、自分の学習理解度や意欲を自己評価できるようにした。自分の学びを振り返る視点をもつことで、学習に主体的にのぞめると考えた。

○課題設定の工夫（本時）

本教材では、「はじめ」「中」「終わり」の構成で、大豆を使った食品にはどんな工夫がされ、どんなものに姿を変えているのか説明されている。教材文では、「中」で示される大豆食品の例は5段落に分けられて紹介されている。今回の単元では、そのうちの1段落を抜いた教材文をあらかじめ提示し、工夫と姿を読み取っていく。説明されている内容を読み取り、新たな食品例を挙げることで一人一人が興味をもって、新たな段落をどこに入れたらよいか考える。

（2）対話的学びのために

○考えをはっきりとさせる工夫（本時）

新たな段落をどこに入れるのか、印刷された本文を並べて比べながら考えられるようにした。自分の考えをワークシートに記入し、考えをはっきりとさせてから話し合うように、活動を設定した。友達との意見が違うところや、同じ意見でも注目している部分や考え方が違うところを見つけ、どの部分に入れるのが適切なのか、対話を通して、考えを深められるようにしたい。

○具体物を示して対話する工夫（本時）

グループでの対話のときには、一面で見られる教材文と、新たな段落文を渡し、どこに入れるのか、示しながら話し合えるようにした。

## 7 単元計画(全6時間)

次	時	ねらい(○)と主な学習活動(●)	手立て(*)研究主題に迫る手立て(☆) 期待される児童の姿□ 評価・評価方法(◇)
第一次	1	<p>○大豆がさまざまな食べ方をされていることに関心もつとともに、単元の学習のめあてを確かめ、学習計画を立てることができる。</p> <p>●大豆を使った食品について考える。</p> <p>●「すがたをかえる大豆」を通読して、おおまかな内容を捉える。</p> <p>●学習課題を確かめ、学習計画を立てる。</p>	<p>*興味関心を高められるように教科書に出てくる食品を数種類用意する。</p> <div data-bbox="887 338 1445 506" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・納豆は大豆からできている。</li> <li>・みそやしょうゆも大豆からできているんだ。</li> <li>・いろんな食べ物になっているんだ。</li> </ul> </div> <p>☆一段落を抜いた教材文を提示する。</p> <p>◇大豆がさまざまな食べ方をされていることに関心をもっている。(発言・ワークシート)</p>
第二次	2	<p>○教材文を「初め」「中」「終わり」の大きく三つに分け、それぞれの部分のおおまかな内容と役割を捉えることができる。</p> <p>●段落分けを確かめ、文章全体の組み立てを捉える。</p> <p>●「初め」と「終わり」を読んで、内容を確かめる。</p> <p>●「問い」がないことについて考え、「初め」の役割と文章全体の話題を捉える。</p>	<p>*それぞれの食品の写真を用意し、食品の説明の順序をワークシートに整理させる。</p> <div data-bbox="903 819 1469 1178" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめの部分で大豆がどのようなものか説明している。</li> <li>・大豆はすがたをかえているから毎日食べていても気付きにくい。</li> <li>・中の部分で、いろいろな食品の説明がされているんだな。</li> <li>・終わりの部分には筆者の考えが書かれている。</li> </ul> </div> <p>◇文章全体のおおまかな内容を捉え、文章の組み立てについて考えている。(発言・ワークシート)</p>
	3	<p>○「中」の段落の内容を読み取り、説明のしかたの工夫をみつけることができる。</p> <p>●事例や言葉に注意して、「中」を詳しく読み、内容をまとめる。</p> <p>●音読を通して中心文を捉える。</p>	<p>*中心となる文が必ず段落の最初にあることを確認し、その分かりやすさに気付かせる。</p> <div data-bbox="922 1536 1481 1749" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段落のはじめに工夫が書かれている。</li> <li>・最初に工夫が書いてあるとわかりやすい。</li> <li>・写真がついていると、何を説明しているのかわかりやすい。</li> </ul> </div> <p>☆工夫と姿を並べて整理し、「中」の内容を整理する。</p> <p>◇各段落で述べられている具体例を捉え、中心となる文に着目しながら、内容を整理している。(発言・ワークシート)</p>

<p>4 本 時</p>	<p>○「きなこ」は何番目に説明をするのが適切か考え、段落相互の関係について考えることができる。</p> <p>●「きなこ」の工夫が書かれた段落を読み、どこの段落に入れるのが適切か考える。</p> <p>●「中」の内容の書かれている順番に注目し、説明の工夫について考える。</p>	<p>*新たな食品例「きなこ」を提示し、どこに入れるのが適切か、接続語や内容をもとに考えるようにする。</p> <div data-bbox="906 241 1469 600" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きなこも食べるための工夫が書かれているから、「中」の部分に入るはずだ。</li> <li>・「次に」という言葉がついているから、最初や最後ではないな。</li> <li>・粉にして食べるのは、2番目くらいに説明するといいな。</li> <li>・豆腐や納豆よりも簡単に作れそうだな。</li> </ul> </div> <p>☆順序を表す言葉や説明されている内容に注目して考えるようにする。</p> <p>◇段落相互の関係を考えて、「きなこ」は何段落に入れるとよいか考えることができる。 (発言・ワークシート)</p>
<p>第三 次</p> <p>5</p> <p>6</p>	<p>○「すがたをかえる大豆」の説明の工夫について話し合ってみよう。</p> <p>●写真の使い方について考える。</p> <p>●事例説明の順番の工夫について考える。</p> <p>○学習のまとめをし、他の食べ物を扱った本に興味をもち、次の単元の見通しをもつ。</p> <p>●単元の学習をふり返る。</p> <p>●他の食品について書かれた本に興味をもつ。</p>	<p>*今まで読み取ってきた内容をもとに、説明の工夫についてまとめる。</p> <div data-bbox="893 1039 1469 1397" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真があると何の食品のことかわかりやすいな。</li> <li>・どんなふうになられているのか写真と一緒に説明するとわかりやすいな。</li> <li>・最初にわかりやすいものから説明するといいな。</li> <li>・簡単な方法から、だんだんと複雑な方法を説明していくとわかりやすい。</li> <li>・にているものは一緒に説明するといいな。</li> </ul> </div> <p>◇説明の工夫について話し合ってみようことができる。(観察・発言)</p> <p>*学習のまとめをし、他の食べ物について興味をもてるよう、食べ物の本を紹介する。</p> <div data-bbox="906 1666 1469 1883" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかの食べ物はどんな工夫をして食べられているんだろう。</li> <li>・ほかの食べ物についても知りたいな。</li> <li>・調べたら、わかりやすく説明したいな。</li> </ul> </div> <p>◇学習について振り返り、ほかの食品について興味をもっている。(発言・ワークシート)</p>

## 8 本時 (4/6)

### (1) 目標

「きなこ」は何段落目に説明をするのが適切か考え、段落相互の関係について考えることができる。

### (2) 展開

時間	学習内容・学習活動	手立て(*)研究主題に迫る手立て(☆) 期待される児童の姿□ 評価・評価方法(◇)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前時までの学習をふり返る。</li> <li>●本時で学習する「きなこ」について書かれた段落を読む。</li> <li>●「工夫」と「すがた」について確認する。</li> </ul>	<p>*前時までに読み取ってきた全体の構成と、「中」で説明されている食品と工夫について振り返る。</p> <p>☆新たな食品例「きなこ」を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きなこも大豆からできているんだ。</li> <li>・きなこもほかの食品と同じように工夫して食べられているんだ。</li> <li>・「こなにひいて食べる」工夫をして、「きなこ」にしているんだ。</li> </ul> </div>
展開 30分	<p>「きなこ」のせつめいはどこに入れたらよいか考え、せつめいのくふうを見つけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「きなこ」はどの段落の間に入るか考える。</li> <li>●考えたことをもとに交流し、自分の意見をまとめる。</li> <li>●全体で考えを発表し、段落の順序について考える。</li> </ul>	<p>*きなこの説明はどこに入れるとよいか、また、どうしてそう考えたのか、ワークシートに自分の考えを記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかの食品と同じようにどんな工夫か、最初の一文に書かれているな。</li> <li>・「次に」と書いてあるから二番目に説明するといいかな。</li> <li>・こなにひくってどういうことだろう。ほかの工夫と比べて簡単にできそうだな。</li> </ul> </div> <p>◇どの段落の間に入れるのが適切か考えている。(ワークシート)</p> <p>☆考えたことをもとに、グループで交流する。自分の意見をはっきりさせて話す。考えを比べる。</p> <p>☆前時までの説明の工夫も思い出しながら、全体の構成に目を向け、説明の工夫について考える。</p>
まとめ 10分		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きなこ」は、豆を粉にしているだけだから、2番目に説明しているんだな。</li> <li>・似ている工夫は一緒に説明するんだな。</li> <li>・簡単な工夫から、だんだん難しい工夫になるように、順番に説明しているんだな。</li> <li>・見て大豆だとわかるものから、大豆がもとになっているとは気づきにくいものになっていくんだな。</li> </ul> </div>

<p>●説明の順番の工夫についてまとめる。</p>	<p>◇段落相互の関係や全体の構成に目を向け、説明の工夫について考えている。(発言・ワークシート)</p>
---------------------------	---

(3) 板書計画

すがたをかえる大豆

きなこのせつめいは、どこに入れるとよいか考え、せつめいのくふうを見つかけよう

きなこの説明文

・くふうについて書いてある。

↓「中」の部分に入れるとよさそう

・「次に」と書いてある。

きなこ

きなこ

大豆をそのままの形でいったり、にたりしてやわらかく、おいしくするくふう

豆まきの豆  
に豆

大切なえいよう分だけ取り出して  
ちがう食品にするくふう

とうふ

目に見えない小さな生物の力をかりて  
ちがう食品にするくふう

なつとう  
みそ  
しょうゆ

とりいれる時期や食べ方をくふう

えだ豆  
もやし

☆せつめいのしかたのくふうを考えよう

- ・「いちばんわかりやすいのは」「次に」「また」
- ・かんたんなもの↓むずかしいもの
- ・かわったほうは、さいご
- ・くふうごとに段落を分けている。
- ・にた作り方はならべている。

<授業風景>



## <協議会記録>

### 分科会提案

○視点1 「本時の課題は児童の思考を深める課題としてふさわしいものであったか。」(主体的な学び)

「接続語」「内容の紹介の順番」の二つの筆者の説明の特徴を捉えさせるために、「きなこ」のせつめいはどこに入れたらよいか考え、せつめいのくふうを見つけよう」という課題を設定した。意図的に抜いた一段落がどこに入るのかを意欲的に考える中で、児童は自然と接続語や内容の順番に対して目を向け、文章全体の構成や説明の工夫に気付き考えることができると考えた。

○視点2 「話し合い活動は、児童の考えを深める手立てとして適切であったか。」(対話的な学び)

児童が自分の考えを深める話し合い活動になるように、自分の考えをはっきりともたせて話し合い活動に入る、話し合い活動に具体物を活用することが有効な話し合い活動につながると考えた。

### 授業者自評

- ・子供達は緊張している中、よく頑張っていた。
- ・授業を通して、6人ほどの児童がうまく理解できていないように感じた。A評価の児童は大変意欲的に取り組んでいたため、今回のような自分で考える課題が有効だと感じた。

### 協議 ●授業者・分科会の意見 ○参観者の意見

#### 【視点1について】

- ヒントを確認しなくてもよかったのではないかと。そのために意見に偏りが見られた。板書に内容のまとめがあったが、接続詞の提示もあってもよかったのでは。
- 文章の内容についてもっと深めてもよかったのではないかと。きなこの文章でなくてもよかった。
- 一時間で理解することを考えると、内容も文章量もコンパクトであるきなこの段落を考えた。
- 説明の工夫をメインの課題にしてもよかったのでは。
- 段落相互の関係という点で考えると接続詞の順序を考えることをメインにしたかった。本当は工夫をねらっていたが、一時間という時間を考えると不安がありあやふやになった。
- まったく違う食品を入れるとしたらどこも聞くのも有効だと考えた。接続詞だけでなく、内容理解の点も含め、考え深める展開になったのでは。

#### 【視点2について】

- 話し合いの具体物の活用が大変よかった。
- 話し合い活動は、新たなものを皆で作上げるものなのでは。
- 事前授業では、話し合い活動の設定で、自然と子供達同士の対話が生まれていた。
- 3年生のねらいを踏まえ、個々の意見を述べる中で、友達の意見を知るまでも十分かと感じた。
- 活動合って学びなしという言葉もある。教師の役割をどのように考えていたのか。
- 具体物があれば、対話がうまれるツールになると思っていた。教師の役割までは考えていなかった。
- ワークシートに友達の意見を書く欄があった。話し合いを有効にする手立てと考えていた。
- 授業の後半で話し合いをしたがっている姿が見られた。班にしなくても隣の人と話し合うだけでも話し合い活動になると思う。

#### 【その他】

- 話し合い活動は、個から集団、そして個にもどる活動だと思う。個にもどる場面は本時ではどこか。
- 説明の工夫について考える場面が個にもどる場面と考えた。
- 話し合い活動の具体物が大変有効であった。

## <指導・講評>

東京女子体育大学教授 学長補佐

田中 洋一 先生

- ・学習指導要領が改訂されても、言語活動を通してしっかりと考えましょうという流れは変わらない。むしろそこを充実させていく方向性である。言語活動はあくまでも手段だということが大切。アクティブラーニングとは話合いや調べ学習の活動を指すのではなく、子供が主体的に取り組む学びのことである。授業における主体性はしっかりと考えることである。自分達で考えて達成したことが、次の学習意欲につながっていく。
- ・今日の授業は教科書の文を一部隠す等、三年生としては工夫された試みであった。しかし、段落相互の関係を考えることをねらいとしていたが、今回の教材文はそれに向いていない。各段落で示されている具体例は、例示でしかなく内容から段落の順序や関係をとらえることが難しい。
- ・今日の学習は何段階の読みだったのか。今回の、筆者の論の展開では段落の順序を考えることはできない。接続詞を見て考えるしかない。二段階目の読みであったと感じる。
- ・「筆者はこういう順番に並べているけれど、君達だったらそう並べる」という問いかけなら三段階目の読みになる。自分だったら～のような理由で一人一人に根拠をもたせて書かせたい。
- ・三段階目の読みになる課題の発問にはポイントがある。「私だったら」、「ぼくだったら」という部分を意識させることで多様な意見をもてる課題にする。
- ・今日の話合い活動は自分の考えを整理するために有効な課題であった。ただし考えを深める課題設定は十分ではなかった。
- ・主体的な学びをつくるには、子どもの発言を一つ一つ認めることが大切である。授業者はそれができていた。よい授業であった。

## <成果と課題>

### (1) 主体的な学習について

- ・意図的に教材文の一段落を抜き、どこに入るのかを考えさせることで、児童は進んで学習に取り組むことができた。特に接続語に目を向け段落相互の関係をとらえることができた。
- ・教材文は具体例を例示した文章であり、教材の内容に目を向け段落相互の関係をとらえることは難しかった。
- ・教材文の内容の読み取りで第三段階の読みに至らなかった。ぼくなら、わたしならと一人一人が根拠をもち、児童の多様な意見がでる課題設定を今後も追究していきたい。

### (2) 対話的な学習について

- ・自分の考えをワークシートに書かせてから話合いにのぞむことで、児童は自分の立場を明確にして話合いを行うことができた。児童は自分の選んだ理由を説明しながら意見を述べることができていた。
- ・手元で操作し自分の考えを説明できる具体物があることで、児童は自分の考えを分かりやすく友達に説明することができた。
- ・教材文の特性上、教材文の内容ではなく、接続詞の関係へ児童の意識が向いてしまった。詳細な教材研究を行い、教材文の特徴をとらえ、児童の思考が深まる三段階の読みにつながる課題設定が必要であった。

# 中学年分科会 B 授業（第 4 学年）

## 国語科学習指導案

平成 28 年 7 月 20 日（水） 3 校時

4 年 2 組 授業者 田尻 佑樹

**1 単元名** 筆者の意見に対して、自分の考えをもとう

**教材名** 「動いて、考えて、また動く」（光村図書 4 年）

**2 思考を深める課題の設定**

筆者の意見に対して、自分の考えをもつ。

**3 本時のねらい** 筆者の意見に対して、自分の考えをもつことができる。

**4 展開（6 / 6）**

学習活動	手だて（*） 思考を深める手だて（☆） 期待される児童の姿 <input style="width: 40px; height: 20px;" type="text"/>
1 前時の学習内容を振りかえる。 2 学習課題をつかむ。	*筆者の主張「最高のものを実現するには、まず動く、そして考えて、また動くことが大切だ。」を確認する。
筆者の意見に対して、自分の考えをもとう。	
3 副教材「考えて、考えぬいてから、動く」を読み、筆者の主張を確認する。 4 主教材の筆者の主張との違いを理解する。 5 最高のものを実現するためには、どの意見がよいと思うか自分の考えをもつ。	*「最高のものを実現するには、考えて、考えぬいてから動くことが大切だ。」という主張をおさえる。 ☆主教材と異なる意見が書かれた副教材を提示する。 *ワークシートに書き、主張の違いを捉えさせる。 *「動いて、考えて、また動く」「考えて、考えぬいてから、動く」「その他」のどの意見に賛成か、自分の考えをもたせる。
・わたしは「動いて、考えて、また動く」に賛成です。ぼくはサッカーをしていて、練習後、ノートに課題点を書き、苦手をこくふくしています。だから動いて、考えるが大切だと思います。 ・わたしは、「考えて考え抜いてから動く」に賛成です。理由は、筆者が書いているように、ただ動いても意味はないと思うからです。まず計画を立て、しっかりと考えることが必要だと思います。	
6 小グループで考えを交流した後、全体で意見を交流する。	☆どの意見に賛成か立場を明確にして、四人組の小グループで意見を交流させる。意見を交流した後、疑問点、気が付いた点などを話し合わせる。
7 筆者の意見に対する自分の考えを、根拠を入れて書く。	*話し合いを通して、「一番心に残った意見」を書かせた後、最高のものを実現するためには、どの意見がよいと思うか自分の考えを書かせる。
<b>評価規準</b>	
A	話し合いを通して感じた疑問や気付いたことを交えながら、最高のものを実現するために大切なものは何かに対して、根拠を入れて自分の考えをもつことができている。
B	最高のものを実現するために大切なものは何かに対して、根拠を入れて自分の考えをもつことができている。
（B に到達するための個に応じた手立て） ☆なぜその考えをもったのかを尋ね、どの意見に賛成か立場を明確にして書かせる。	

## <授業後の協議会を通して> ●授業者の意見 ○参観者の意見

○ワークシートのその他はどのような考えを予想していたのか。

●教材文、副教材の主張の中間的な意見が出ると予想していた。

○教材文、副教材の主張を板書で確認した後、二人の児童の意見を聞いた意図は。

●自分の考えをもつのに悩んでいる児童の参考になるように聞いた。

○中学年のねらいは「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」である。「自分の考えを広げたり深めたりすること」は高学年のねらい。中学年にあったねらいを設定すれば、学びに広がりがあったのではないか。

●研究のねらいが考えを深めることであったので、今回のねらいを設定したが、学習指導要領に基づいて、適切なねらいを決めるべきであった。

○話し合いが活発になるグループ編成や方法について何か考えはもっていたか。

●今回、話し合い活動で付箋紙と交流シートを活用した。深い意見の交流にするには、教具等の何らかの手立てが必要だと感じている。また話し合いを深めるために、どの意見に賛成か反対か立場をはっきりさせた。

○一人一人が考えていて話し合いもスムーズだった。意見の言い合いから考えが深まる話し合いにするために、技術的なものを導入してもよかった。

○新たな意見をだすために対立する意見の中から引き出せることがわかった。

○教材文の“動く”が運動だけではなく、副教材を通して、会社経営等に及び、子供達の視野が広がり考えが深まっていた。

○充実していた。意見を選ぶ時に、自分の経験をもとに書いている児童が多かった。その部分を比べて話し合うこともできた。

## <成果と課題>

### (1) 主体的な学習について

- ・自分の考えをもたせるために、児童に新たな視点をもたらす副教材の活用は効果的である。
- ・主体的な学習には課題設定が重要である。児童の考えが分かれる課題を設定することで、自分の立場が明確になり、話し合い活動にも深まりが見られた。
- ・今回は考えが二つに分かれる課題であった。多様な考えをうむ課題や矛盾、葛藤を生む課題等、様々な課題設定を普段から実践し、児童の考えを深めるのに効果的な課題設定について今後も考えていきたい。
- ・本授業の評価は、自分の意見をかけたら B、根拠を交えて自分の意見をかけたら A としたが、自分の考えをもつことをねらいとする授業でこの評価基準は本当によいのか。明確な答えがない課題だからこそ、評価基準の設定について研究していきたい。

### (2) 対話的な学習について

- ・話し合い活動で付箋紙や交流シート等の教具を活用することで、児童の考えが明確になり、話し合いがスムーズに行うことができた。
- ・話し合い活動が意見の言い合いで、考えを深め、新しい意見をもつまでにはいたるグループがほとんどなかった。話し合い活動を通して、考えを深める手立てや方法を今後、検討する必要がある。

# 高学年分科会

研究推進委員 ○

吉田 真実

○ 見米 美喜子

○ 安藤 亨

堀 真人

○ 坂本 薫

## 1 A授業指導演

第6学年 体育科指導演

「跳び箱運動」

## 2 B授業指導演

第5学年 体育科指導演

「跳び箱運動」

# 高学年分科会 A 授業（第6学年）

## 体育科学習指導案

平成28年11月29日（火）第5校時

6年1組 児童数 37名

授業者 主任教諭 安藤 亨

### 1 単元名 器械運動「跳び箱運動」

### 2 単元の目標

- 【技能】基本的な支持跳び越し技に取り組み、それぞれについて自分の能力に適した技とその発展技ができるようにする。
- 【態度】運動に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
- 【思考・判断】自己の能力に適した課題をもち、技ができるようになるために練習方法や場を工夫することができるようにする。

### 3 単元の評価規準

	ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	ウ 運動の技能
運動領域の 評価規準	器械運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、約束を守り助け合って運動をしようとしたり、運動する場や器械・器具の安全に気を配ろうとしたりしている。	自分の力に合った課題の解決を目指して、練習の仕方を工夫している。	跳び箱運動について、安定した基本的な技やその発展技を身に付けている。
運動領域の 評価規準の 具体例	①技を高める楽しさや喜びに触れることができるよう、跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。 ②約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。 ③器械・器具の準備や片付けで分担された役割を果たそうとしている。 ④運動する場を整備したり、器械・器具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。	①自分が取り組む技の行い方やポイントを知っている。 ②自分が取り組む技ができるようになるために、練習の場や方法を選んでいる。	①自分の力に合った安定した基本的な支持跳び越し技ができる。

### 4 単元について

器械運動領域の運動は、克服・達成型の特性をもっており、児童が「自分の力に合った技ができた!」、「自分の目標を達成できた!」という時に楽しさを味わうことができる運動と言える。しかし、実際には、短い単元計画の中で、すべての児童がこの特性を味わうことが難しく、「技ができない」ことが跳び箱運動嫌いに繋がっている実態がある。そこで本単元では、支援を必要とする児童が安心して技に取り組み、できない技を克服していけるように、個の課題に応じた場の設定や、技能ポイントの精選を行っていききたい。またそれと同時に、「技ができるからすごい!」という子供たちも持っている価値観を広げ、単元を通して「技はできないけど、どうやったら解決できるか分かっていることもすごい!」ということも価値付けを行っていききたい。そのためにタブレットを活用し、どの児童にとっても取り組む技の技能ポイントや解決方法を明確にした授業を行っていききたい。

## 5 児童の学習経験

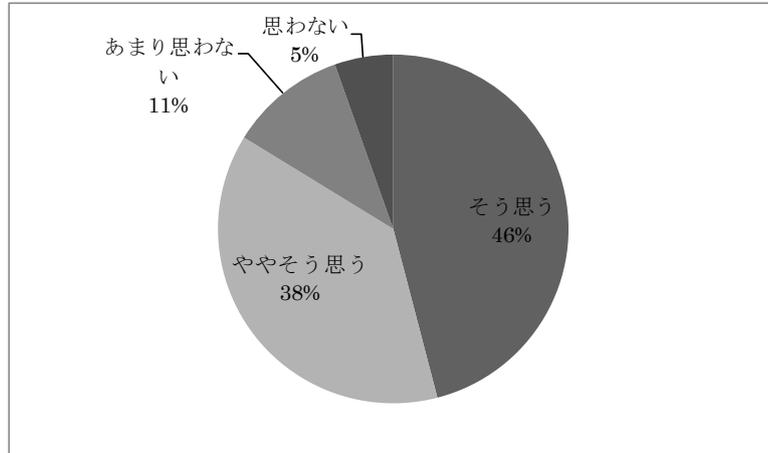
本学級の児童は、体を動かすことが好きな児童が多い。学級遊びでは、外遊びになることが多く、学級全体で参加している。児童の関わり合いの面では、うまくいかない児童にポイントを教えてあげたり、励ましたりすることを好む児童が多い。

前期までの他の領域での授業の様子をみると、意欲的に取り組む子が多いが、自分に合った課題を設定したり、運動のポイントを見つけたりする児童が少ないように感じる。また、跳び箱運動については、次のアンケート結果から、体育が好きな子が多い半面、跳び箱運動を「怖い」「跳べない」と感じ、消極的な児童が4割近くいる。

<実態調査>

### ①体育は好きですか？

- 1 そう思う (17)
- 2 ややそう思う (14)
- 3 あまり思わない(4)
- 4 思わない (2)

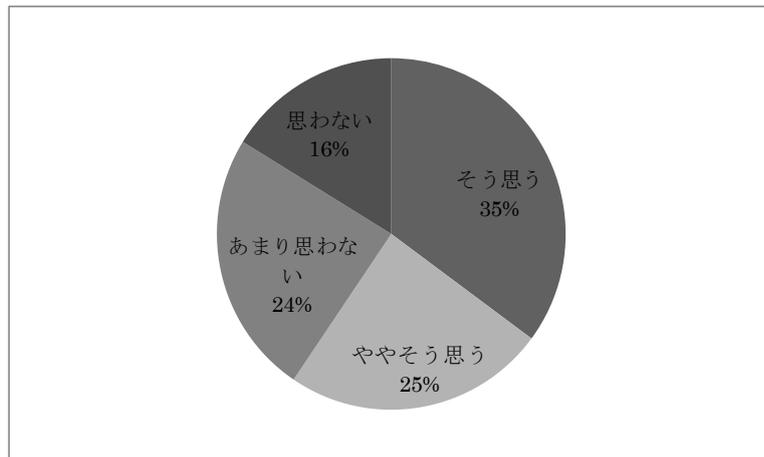


#### 【結果】

本学級は、体育が好きだと思っている児童がおよそ 84%で、体育に対して意欲的な児童が多い。その一方で、体育が嫌いだと考えている児童も2名おり、授業の改善が求められる。

### ②跳び箱は好きですか？

- 1 そう思う (13)
- 2 ややそう思う (9)
- 3 あまり思わない(9)
- 4 思わない (6)



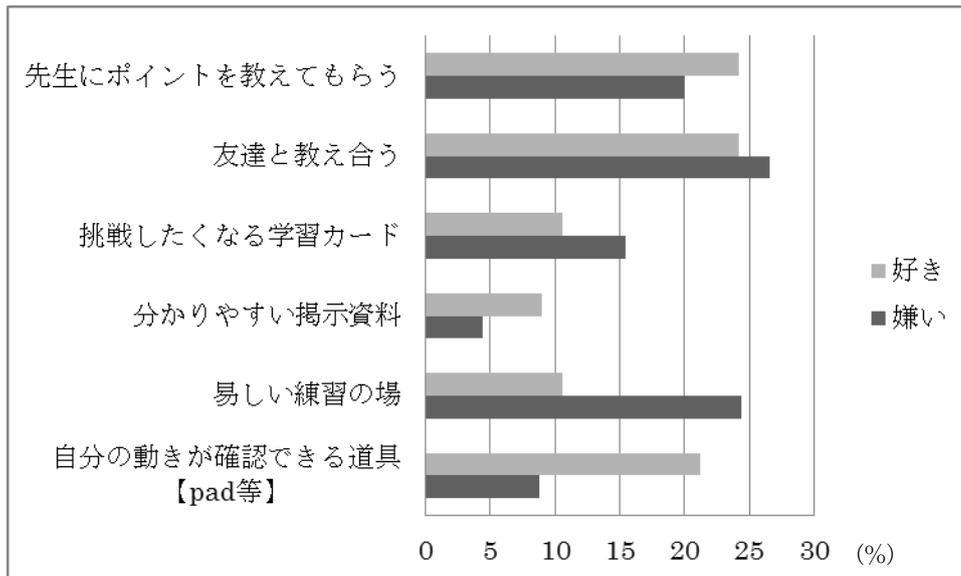
#### 【結果と考察】

本学級では、跳び箱が好きな児童が60%と、そう思わない児童が40%で、クラスの半数近くの児童が跳び箱運動に苦手意識を感じている。跳び箱が好きな児童は、「挑戦するのが楽しい」「いろいろな技があって楽しい」「跳べた時にうれしい」と感じている。苦手な児童は「跳ぶ前が怖い」「落ちそうになるのが怖い」「失敗して怪我をするのが怖い」などと、跳び箱運動に対して「怖い」と感じている児童が多い。そのことをふまえ、運動に対する「怖さ」をやわらげるような工夫、配慮が必要である。

③跳び箱、マット、鉄棒運動が楽しくなるためには何が必要だと思いますか？(3つ選ぶ)

跳び箱が好きな児童と嫌いな児童とのクロス集計

- 1 先生にポイントを教えてもらう (好き 24.2%、嫌い 20%)
- 2 友達と教え合う (好き 24.2%、嫌い 26.6%)
- 3 挑戦したくなる学習カード (好き 10.6%、嫌い 15.5%)
- 4 分かりやすい掲示資料 (好き 9%、嫌い 4.4%)
- 5 補助の場【技ができるための易しい場】 (好き 10.6%、嫌い 24.4%)
- 6 自分の動きが確認できる道具【pad等】 (好き 21.2%、嫌い 8.8%)

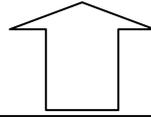


【結果と考察】

跳び箱運動が楽しくなるためには、「友達と教え合う」「先生にポイントを教えてもらう」が必要と考えている児童が共に多い。また、跳び箱運動が好きだと回答した児童は、嫌いと答えた児童に比べて「自分の動きを確認できる道具」を必要としている児童が多い。これは最低限の技ができることを前提に、さらに自分の試技の様子を観察して質を高めていきたいという運動への意欲からくるものだと考えられる。一方、跳び箱運動が嫌いだと回答した児童は、好きと答えた児童に比べて、「易しい練習の場」「挑戦したくなる学習カード」が必要だと考えている児童が多い。これは普通の場合で試技をすることが怖かったり、なかなか技が身に付かず困ったりしていることが原因だと考えられる。

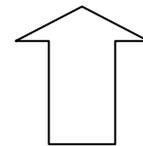
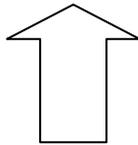
苦手意識のある児童には、易しい場を設けたり、教師が具体的に補助をしたりできる場を設けたりしながら、タブレットの良さである、自分の実際の様子を見て考えたり、見本の動画を見て学べたりするところを生かした授業を展開していきたい。

研究主題 思いや考えを深める子の育成



目指す児童像(深い学びの姿)

自分の課題に気付き、練習方法を選んだり工夫したりすることができる子



(1) 主体的学びのために

○タブレットを活用して技のイメージやポイント  
を児童に分かりやすく伝え、技に挑戦する意欲を  
高める。



○安心して技に取り組める場を設定し、技に挑戦する  
意欲を高める。



○主運動に繋がる運動遊びをゲーム形式で行い、跳  
び箱運動に取り組む意欲を高める。



(2) 対話的学びのために

○タブレットの動画をグループで確認し、技のポイ  
ントについて共有する。



○動画で確認した技能ポイントを壁の掲示物など  
を用いて、全体で共有する。



○タブレットを活用し、友達と撮影し合い、  
一人一人の課題についてグループで話し合  
う時間を設定する。



7 単元の指導と評価の計画（6時間）

学習の段階		つかむ	高める			深める	
時数		1	2	3	4(本時)	5	6
一時間の学習の流れ	1. オリエンテーション	○学習の流れ ○学習資料の使い方 ○グループ学習の仕方	1. 学習の流れの確認 ・今日の学習内容を伝え、児童が見通しをもてるようにする				
	2. 準備運動	○体の部位をほぐす	2. 準備運動・補助運動 ・体の各部位(肩・手首・腰・膝・足首など)をほぐすようにする ○ゆりかご、くま歩き、かえるの足打ち、うさぎ跳びなど ・単元の後半部分では、動きの大きさ、時間や回数、用具等を利用して、動きの質を高めていく				
	3. 感覚づくりの運動	○主運動を行うために必要な基礎となる感覚を身に付ける	3. 場の準備				
	4. 場の準備	○安全面に気を付けて準備をする ・グループで担当場所を決めておく	4. ポイントタイム(技のポイントタブレットを確認する) ○繰り返し系のポイントについて知る。 安定した開脚跳び(第2時) かかえ込み跳び(第3時) ○回転系のポイントについて知る。 安定した台上前転(第4時)			4. 選択した技の課題別学習に取り組む① ○繰り返し系 ○回転系の中から選択 ・同じ技に取り組む児童同士でグループを組むようにする	
	5. できる技の確認	○第5学年までに取り組んだ自分ができる技の確認をする	5. 繰り返し系の技の課題別学習に取り組む(チャレンジタイム) ○安定した開脚跳び ・教え合いができるように、グループを組むようにする ・技ができそうにない児童は、前に設置してある「補助運動の場」で技に取り組むように伝える ・お手本の技と見比べながら技に取り組むようにする	5. 繰り返し系の技の課題別学習に取り組む(チャレンジタイム) ○かかえ込み跳び ・教え合いができるように、グループを組むようにする ・技ができそうにない児童は、前に設置してある「補助運動の場」で技に取り組むように伝える ・お手本の技と見比べながら技に取り組むようにする	5. 回転系の技の課題別学習に取り組む(チャレンジタイム) ○安定した台上前転 ・教え合いができるように、グループを組むようにする ・技ができそうにない児童は、前に設置してある「補助運動の場」で技に取り組むように伝える ・お手本の技と見比べながら技に取り組むようにする	5. 選択した技に取り組む② ・児童の実態、学習状況に応じて、発展技に取り組める児童は取り組む。 ○大きな開脚跳び ○大きな台上前転 ・友達同士で技を見合うようにする。	5. 発表会を行う ○開脚跳び ○かかえ込み跳び ○台上前転 ・身に付けた技を第4時までのグループ内で発表し合う。
	6. 振り返り	○開脚跳び ○かかえ込み跳び ○台上前転	6. 振り返り ・技能を習得した場合は、どうしたら習得できたのか、習得できなかった場合は、どこまでできているのかを振り返るようにする ・よい動きや、よい学び合いができていた児童を紹介する(実演披露)				
	7. 整理運動		7. 整理運動 ・今日の学習でよく使った部位をほぐすようにする				
	8. 片付け		8. 片付け ・安全面に気を付けて片付けるようにする				
評価計画	態度	③④観察	②観察・カード				①観察
	思考・判断		①観察・カード	②観察・カード	②観察・カード	②観察・カード	①観察・カード
	技能					①観察・タブレット	①観察・タブレット

<チャレンジタイムの流れ>

①ポイントを意識して技に取り組む(3回)

②タブレットを使って撮影し合う

③ポイントを見ながら、一人一人の課題を個人で見合う

④課題を意識して技に取り組む

## 8 本時の学習（4/6時間）

### （1）目標

【思考・判断】自分が取り組む技の行い方やポイントを知っている。

### （2）展開

時間	学習活動・学習活動	手立て(*) 研究主題に迫る手立て(☆) 評価・評価方法(◇)
1 3 分	<p>1 集合・整列・学習の流れの確認</p> <p>2 準備運動・補助運動 かえるの足打ち→腕支持感覚・腰を高く上げる あざらし歩き→腕支持感覚</p> <p>3 準備</p>	<p>*学習の流れが分かる掲示物を用意して確認することで、見通しをもたせる。</p> <p>☆補助運動は、一つ一つの動きを丁寧にを行うように指導する。 ・かえるの足打ち⇒手は肩幅に開いてパー 手と手の間を見る ・あざらし歩き⇒腰から下の力を抜き、手のひらを開いて、腕の力で進む。</p> <p>*安全に気を付けて、グループで協力して行うよう伝える。</p>
7 分	<p>4 学習のめあての確認 友達と協力して、自分の「台上前転」の課題を見付けよう！</p> <p>5 <b>ポイントタイム</b> ○「台上前転」 ・お手本の動画を見て、技のポイントを知る。</p>	<p>*「友達と協力」については、具体的な姿を示してめあてを伝える。</p> <p>☆拡大テレビでお手本の動画を全員で見て、ポイントを知る。 ☆台上前転のポイントについて確認する。 (自分なりに一番大切だと感じたポイントについて聞く)</p> <p>&lt;タブレットのポイント&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 踏み切り板に向かって勢いよく<u>片足</u>で踏み切る</li> <li>2 両足の<u>つま先</u>で<u>バーン</u>と<u>大きな音</u>を出して 踏み切り板を蹴る</li> <li>3 跳び箱の<u>手前</u>の方に手をつき</li> <li>4 <u>お尻</u>を高く上げる</li> <li>5 腕で体を支えながら素早く頭を入れる。 (跳び箱につけるのは、<u>頭の後ろ</u>)</li> <li>6 体を丸めて回転し、<u>腕</u>を前に出して跳び箱から下りる。</li> </ol>

20分	<p>6 <b>チャレンジタイム</b></p> <p>○「台上前転」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに練習する。</li> <li>①：ポイントを意識して技に取り組む。(3回)</li> <li>②：タブレットを使って撮影し合う。</li> <li>③：タブレットのポイントを見ながら、一人一人の課題をグループで話し合う。</li> <li>④：課題を意識して技に取り組む。(必要に応じて、タブレットでアングルを工夫して撮影し合いながら課題のポイントを確認する。)</li> </ul>	<p>*②の段階では、タブレットのお手本の動画と同じアングルで、技の全体像が分かるように撮影するよう伝える。</p> <p>☆技ができそうにない児童は、前に設置してある易しい場で技に取り組むよう伝える。</p> <p>☆④の段階では、技に取り組む前に、撮影者に自分の課題を伝えてから行うよう伝える。</p> <p>(例) 試技者：「僕は、おしりがなかなか高く上がらないから、おしりの位置を撮影して！」</p> <p>撮影者：「分かった！じゃあ、お尻の高さが良く分かるアングルで撮影するね！」</p> <p>☆撮影するだけでなく、お手本の動画と見比べながら技に取り組むよう伝える。</p> <p>*自分の課題に対して、うまくできない児童には、個別に声をかけたり、補助に入ったりする。</p> <p>◇自分が取り組む技の行い方やポイントを知っている。【思考・判断(観察)】</p>
5分	<p>7 整理運動</p> <p>8 学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達との協力、自分の技の課題への気づきについて振り返る。</li> </ul> <p>(映像紹介)</p> <p>9 片付け</p> <p>10 整列・あいさつ</p>	<p>*よく使った部位をほぐす。</p> <p>☆友達と協力して課題を克服できた児童の映像を紹介する。</p> <p>*どうしてできるようになったのか、意識したことを発表させ、全体に広げる。</p> <p>*安全に気を付けて、グループで協力して行うよう伝える。</p>

<授業風景>



## <協議会記録>

### 分科会提案

跳び箱運動は技の「できる」「できない」がはっきり分かる単元である。そのことだけに重きを置くのではなく、研究主題を受け、本単元では技ができるようになると深い学びをする児童像を、「自分の課題に気付き、練習方法を選んだり工夫したりすることができる子」と設定して、分科会で検討を重ねてきた。主たる手立てとしてタブレットパソコンを活用することを授業の柱とした。この活用による自分の課題への気付きが、主体的に学ぼうとする原動力、対話的な学びのきっかけになるのではないかという考えが高学年分科会の提案である。

○視点1 ポイントタイムで完成形動画の視聴が、技のポイントを理解する上で有効であったか。

○視点2 児童が試技の撮影をすることと見合うことが、だれもが自分の課題を明確にもつために有効であったか。

I C Tを授業に取り入れることの有効性は高いと考えられるが、有効活用には課題もあると考えられる。2つの視点から、取り入れる際の課題や注意点などこれからの授業作りに役立つ議論を行いたい。

### 授業者自評

- ・本時は「課題を見つける」ことをめあてと設定した。
- ・学習を重ねることで、タブレットパソコンを使って、自分の課題を見付けられるようになってきている。
- ・「できないといけない」という子供にとってのプレッシャーを取り除き、技が「できる」「できない」ではない跳び箱運動の楽しさを子供たちに伝え、価値付けて授業を進めてきた。

### 協議 ●授業者・分科会の意見 ○参観者の意見

#### 【視点1について】

- 完成形動画に各局面でのポイントが、字幕で入っていてよかった。
- ワークシートにポイントタイムで見た映像と同様の静止画があり、自分の課題点を丸で囲むことができとてもよかった。
- ワークシートの静止画だけでは一連の流れとして見るのが難しいが、動画で見て止めたりスロー再生できたりすることがとても有効だと感じた。

#### 【視点2について】

- 映像がスロー再生できたり、静止できたりするのが良かった。
- さらに今後、完成形動画と自分の試技動画を並行して再生できるよう、アプリの改良が進んでいる。
- 後半はタブレットを使わずに活動していた。もっと活用できたのではないかと。
- 使用を指導したが徹底はしなかった。自然な形にならないと考えたため。

#### 【その他】

- できない児童への手立てや配慮はどのように考えたのか。
- できない子供たちを別場所に抜くか、事前に迷った。気持ちに寄り添って指導したい。
- チャレンジタイムでのグループ分けの意図は何だったのか。場によって人数差があったように感じた。
- 背の順で分けた。1班が間違えた段で場を準備したため、低い段に集中した。
- 課題をもった児童に対して、今後どのような手立てをしていくのか。
- タブレットの課題別機能を使いながら、課題別に解決していきたい。
- できない子に対して出たアドバイスが、適切なものでない時があった。ポイントごとに場を分けるなどすると、さらに議論が活発になるのではないかと。
- 児童間で、的確なアドバイスができるかという点は課題であると思う。課題と原因の不一致は、次時以降に教師がよく見て支援を行い、場を課題コースごとに分けることなどを行っていきたい。

## <指導・講評>

東京女子体育大学教授 学長補佐  
田中 洋一 先生

- ・活用型授業の4つの要素について
  - ① 課題をどこに設定するか。(児童の多様な考えが生きる課題)
  - ② 題について考えるための条件としての情報の量と質は適切であるか。
  - ③ える形態や授業校正が適切か。(個人、ペア、グループ) 個→集団→個の流れ。  
考えさせる時間の確保
  - ④ 児童の発想を生かす評価ができていないか。到達度でみるのが、思考・判断の評価ではない。
- ・実技教科は技能がはっきり分かる。目的意識がしっかりもててよいが、思考・判断では、「できればよい」のではなく、結果に引きずられずどれだけ工夫したかを評価していくべき。
- ・今日の授業は教え込みではない点良かったが、運動時間を確保することが難しい。行き過ぎると児童が物足りなく感じるので、考えさせるところと実技するところのバランスこそ必要である。
- ・6つのポイントは教師からではなく、子供たちから出させたい。ポイントを少なくしてもよい。
- ・自分の課題を自分で考えさせる主体性のある活動はよかった。
- ・「私の課題」として捉えて、グループとして取り組ませたい。考える形態を個→集団→個としたい。
- ・タブレットを使うことで、客観的に見ることができるのは良い。陸上・器械運動はタブレットを使用して録画することが授業に生きる単元である。
- ・子供同士が活発にアドバイスをしていた。全教科で行っていききたい。
- ・6つ以外のポイントを挙げていた子供やつぶやきなども大事に拾って評価して行ってほしかった。
- ・先進的な授業で、子供たちがのびのびと活動していて、素晴らしい授業だった。

## <成果と課題>

### (1) 主体的な学習について

- ・タブレットパソコンを使うことが自分への課題に気付くことに有効な手立てとなり、主体的に学びへとつながった。
- ・技のポイントを教師側から与えずに、子供たちに見出させるための授業作りが今後の課題。

### (2) 対話的な学習について

- ・個の活動だけでなく、撮影し合い見合うことで課題について考える対話が生まれ、子供たちが学びを創り上げていた。
- ・児童間の対話による課題設定は、原因と課題に一致性があるかを教師側が確認し、個々にとって適切な設定課題になるよう配慮していくことが必要。

# 高学年分科会 B 授業（第5学年）

## 体育科学習指導案

平成28年11月28日（月）6校時

5年2組 授業者 見米 美喜子

### 1 単元名 器械運動領域「跳び箱運動」

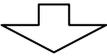
### 2 参観の視点

- 技のポイントを理解し自分の課題を明確にするために、ポイントタイムが有効であったか。
- 自分の課題に合っためあてをもち、チャレンジタイムで主体的に練習に取り組んでいたか。

### 3 本時のねらい

かかえこみ跳び技のポイントを知り、自分の課題に合った場で練習に取り組む。

### 4 展開（3／6）

学習活動	手だて（*）評価（◇）
1 集合・あいさつ・学習の流れの確認 2 本時のねらいを知る。	*見通しをもたせる掲示物の用意。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     自分の課題を見つけて、練習に取り組もう！                 </div>	
3 準備運動・補助運動をする。 ・手首、足首、肩、股関節、首、腰をしっかりと伸ばす ・うさぎ跳び、ステージ跳び乗り 4 場の準備をする。	*うさぎ跳びで体を起こす感覚作り。 *ロイター板を使ってステージに跳び乗り、片足→両足踏み切りの感覚作り。 *場の設定を図で示す。
5 ポイントタイム (1) かかえこみ跳びの完成形動画を視聴する。 (2) 各班で動画撮影をする。 ①ポイントを意識して2回試技を行う。 ②タブレットで撮影をし合う。 ③一人一人の課題を班で確認する。	*かかえこみ跳びのポイントに付いて確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     &lt;動画のポイント&gt;                      ①片足で蹴り大きく踏み込む。(トーン)                      ②つま先で強く蹴る。(バン)                      ③うでを前にふり出す。                      ④手を遠くに着く。と同時に跳び箱を突き放す。                      ⑤ひざを胸に近づける。                      ⑥ひざを曲げ、着地を止める。                 </div>	
6 チャレンジタイム (1) 課題に合った練習場所を選ぶ。 (2) 課題別練習の場で練習をする。 <b>場①</b> …跳び越せる児童 →縦5段でタブレット撮影し合って、技の完成度を高める。 <b>場②</b> …跳び越せるが足がひっかかる児童 →縦4段でタブレット <b>場③</b> …跳び越せず台上に足裏で乗ってしまう児童 →ロイター板・4段跳び越し(着地:E. マット) <b>場④</b> …跳び越せず、ひざをむねに引き付けられないため台上に正座してしまう児童 →ステージ跳び上がり練習 →ロイター板・着手無しで3段跳び越し(着地:E. マット)  <div style="text-align: center;">  </div> それぞれの場で自信がいたら「お試し場」でやってみる。(跳べたら次の段階で練習。うまくいかなかったら戻る。)	◇自分の課題を理解し、自分に合った練習場所を選択している。 【思考判断（観察）】 ①5段にすることにより空中姿勢が大きくなり、着地がしやすくなる場。 【重点チェック】・着地 ②4段にすることにより、直線的な空中姿勢をとりやすくなる場。 【重点チェック】・跳ぶ方向性・着手位置 ③エバーマットで怖さを和らげロイター板使用で跳ぶ感覚をつける場。 【重点チェック】・ひざの引き付け・着手場所 ④着手なしのジャンプでひざをむねに引き付ける練習の場。 【重点チェック】・ひざの引き付け
7 整理運動 8 片付け 9 まとめ ・振り返り ・あいさつ	*よく使った部位をほぐす。 *安全に気を付けて協力して片付けを行うよう伝える。 *本時について振り返る。

## <授業を通して>●授業者の意見 ○参観者の意見

- 動画がスローになったり、ポイントが書いてあったりして分かりやすかった。
- 子供たちは仲良くタブレットを使って活動の振り返りをしていた。
- 撮影した動画を見比べて活発に議論していた。何回も観ることで、自分の動きを客観的に捉えられるには素晴らしい。ICTの力。
- せっかく話し合っていたのに、議論のポイントが各自の中で明確なのか少し疑問に思った。
- 話し合いの途中で、議論のポイントを取り上げ、全体で共有するなどの時間を取るようにしたい。
- 動画の取り方、カメラマンの位置はどうだったのか。
- 動画撮影をし始めて2回目の授業であった。位置などについては指導したが、経験を重ねていくことで全員が理解し、上手に使いこなせるようにしていきたい。
- 「跳べた」「ちょっと引っかけた」「上に乗った」「跳べなかった」を明確にするためにタブレットは必要なのか。
- 必要であると考えている。自分の姿を見ることで、技の曲面におけるポイントを見ることができ、完成度を高めた「できた」を判断することができる。また、できるようになるため、どこの部分が足りないのかを考える材料となると考えた。
- どの子も跳べるようになりたいと願い、一生懸命に練習していた。
- みんなでタブレットを確認している時に、できた子は帽子を赤にするなどの手立てをとってはどうか。
- この時間は、自分の課題に気付き練習に取り組むことをねらいとしたので、できた、できなかったに焦点を合わせて、意欲を低下させたくなかったのも、そのような手立ては取らなかった。
- ポイントタイムで跳べなかった子供たちのめあては何だったのか。
- まずは、足を閉じて跳び箱の上に乗ることをめあてとした。そのため、その子供たちは別の場で練習を設定した。
- エバーマットが動いてしまい、安全面で不安が残った。もう1枚ほしいところ。
- その通りだと思う。滑り止めマットの数も増えると、もっと安全に練習できる場が増えると思う。
- 跳べなかった子が、練習を繰り返す中で跳べるようになった。とても喜んでいて。
- この単元の中でできるようになった子、以前よりも技の完成に近づいた子などが多くいた。

## <成果と課題>

### (1) 主体的な学習について

- ・タブレットパソコンを使うことで技のポイントを理解しやすくなり、自分の課題に気付くことが可能となった。
- ・タブレットパソコンの操作に慣れることが課題。様々な教科、単元で活用していきことが大切。

### (2) 対話的な学習について

- ・撮影し合い技のポイントを見合うことで子供たちの間で対話が生まれた。
- ・各話し合いの内容と、個々が気付いた課題が適切な内容であるかを、いかに教師が把握し、指導を入れていくかが今後の課題。

# Ⅲ 研究のまとめ

## ○研究の成果と課題

### <主体的で対話的な学びの視点から>

#### (1) 成果

- ・児童が自分で考えたい、友達の意見を聴きたいと思う主体的で対話的な学びの姿勢を引き出すためには、学習課題が重要であることが改めて検証できた。
- ・分かりそうで、分からない課題。出来そうで、少しの努力を要する課題。それらの課題を自分たちで解決できた経験を重ねさせることが、児童の主体性につながっていくことが見えてきた。
- ・国語科の「読み」の学習においては、3つの読みの段階のどこに位置する課題であるのかを意識することで、第三段階の読みにせまる課題を考えだすことにつながった。
- ・タブレットパソコンの使用は、主体的で対話的な学びを創り出すためには、一つの手立てになり、効果も高いことが分かった。
- ・日常的に小グループ（二人組・四人組）での話し合い活動を取り入れることで、個人→グループ→全体の流れで意見を述べ合う児童の姿勢が身に付いてきている。

#### (2) 課題

- ・国語科で、学習課題をねらいに適したものとするためには、さらに深い教材分析が必要である。多様な意見が出て、児童の話したい意欲を引き出す課題を整理していく必要がある。
- ・低学年の場合、二人組での話し合い方のスキルを、段階を追って日常的に学ばせておくことも、話し合い活動を活発化させるために必要である。
- ・対話の中身が、学習のねらいに沿ったものかどうかを見取ったり、また沿ったものにしたるための手立てを考える必要がある。
- ・ICT 機器が主体性や対話的活動に効果的に働くように、使用する教科・単元・場面の研究も進める必要がある。

### <今後に向けて>

- ・「深い学び」をどうとらえるかを含め、「主体的」「対話的」「深い学び」の関係を考え、その言葉の定義を明らかにしたり、関連図を使って整理したりしていきたい。
- ・主体性をどう評価していくのか。評価方法を明らかにしていきたい。

# IV 研究資料

# 第5学年 国語科学習指導案

平成29年1月24日(火) 第5校時

対象 5年1組 児童数 38名

学校名 中野区立緑野小学校

授業者 教諭 吉田 真実

会場 3階 5年1組教室

研究主題

思いや考えを深める子の育成

～主体的・対話的で深い学びを通して～

1 単元名 環境問題について自分の意見をもとう

教材名 「わりばしを使わないようにしましょう（主婦の投書）」

「森林を守る（環境学者の意見）」

2 単元の目標

◎事実と感想、意見との関係を押さえて、自分の考えを明確にして読むことができる。

○筆者の考えに対する自分の考えを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
題材に興味をもち、自分の知識や経験などに関係づけながら文章を読んでいる。	・複数の文章を合せ読みし、情報を選び、自分の意見を構築する。 ・文章構成を把握し、事例と筆者の考えを整理して読む。 ・環境に対する自分の考えをもつ。	語句と語句の関係に気をつけて、筆者の考えの進め方を読み取っている。

4 単元について

主教材「わりばしを使わないようにしましょう」は、環境問題について興味があるという主婦の投書である。わりばしを使わずに自分のはしを使うことで、身近なことから環境に関わっていこうという投げかけをしている文章である。もう1つの教材である「森林を守る」は、環境学者が書いた文章で、森林は適度に間伐をすることで木々が豊かに育つこと、間伐材はわりばしやつまようじになり、林業で働く人々にとっては大事な収入源であることなどが述べられている。主教材である主婦の投書を読み取ったあと、環境学者が書いた文章を合せて読むことで、改めて主教材について主体的に読ませ、環境問題について自分の考えを広げたり深めたりさせることをねらいとして単元を設定した。

5 児童の実態

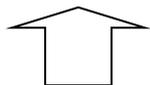
筆者の考え（主張）を読み取り、それを支えている事例とのつながりを検証していく学習は、五年「見立てる／生き物は円柱形」でも経験した。本単元では、環境問題について書かれた二つの文章を合せて読むことで、自分の経験と結び付けて読むこと、さらに、自分の考えをまとめて書き表すことなどにつなげていきたい。自分の経験と結び付けて読むことは、第一学年から繰り返し取り組んでいることではあるが、複数の教材を合せて読むことは初めてである。

研究主題 思いや考えを深める子の育成



目指す児童像（深い学びの姿）

自分の考えを明確にして読むことができる子



（1）主体的な学びのために

○課題設定の工夫

主教材「わりばしを使わないようにしよう」を読み、自分の考えをもったあとに、もう一つの教材「森林を守る」を読むことで、新たな視点に気づかせ、改めて主教材を主体的に読むことができるようにする。

○課題解決のための情報

環境保全をするために、森林に手をつけない方がよいという主婦の意見と、環境保護のために森林に手を加えた方がよいという環境学者の意見を示す。



（2）対話的な学びのために

○考えをもたせるための学習形態の工夫

主教材を読み、自分なりの考えをしっかりとったあとに副教材を読むことでもう一度自分の考えを吟味する。その意見を話し合うことで、多様な意見の交流が実現する。子ども達は、それをきっかけに、主教材の読みを深めることができると思う。

## 7 単元計画(全3時間)

次	時	ねらい (○) と主な学習活動 (●)	手立て(*)研究主題に迫る手立て(☆) 評価・評価方法(◇)
第一次	1	<p>○環境問題について関心をもつとともに、単元の学習のめあてを確かめ、学習計画を立てることができる。</p> <p>●主教材「わりばしを使わないようにしましょう」を通読して、おおまかな内容を捉える。</p> <p>●学習課題を確かめ、学習計画を立てる。</p> <p>●全文を読み、文章全体を三つのまとまりに分け、事例と筆者の意見を整理する。</p> <p>●「わりばしを使わないようにしましょう」を読み、筆者の意図を読み取る。</p> <p>●筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>*学習計画を立てることで単元の見通しをもてるようにする。</p> <p>◇身のまわりの環境問題に関心をもっている。(発言・ノート)</p> <p>*事例と筆者の意見の部分を区別し、整理させる。</p> <p>◇文章構成を把握し、事例と筆者の意見を整理して読んでいる。(発言・ノート)</p> <p>◇筆者の考えに対する自分の考えをまとめている。(ノート)</p>
第二次	2 本 時	<p>○「森林を守る」を読み、森林の現状について知り、環境問題に対して自分の考えをもつ。</p> <p>●それぞれの筆者の考えを知った上で、副教材を読んで、改めて主教材について読み深める。</p> <p>●互いの考えを伝え合う。</p>	<p>☆環境問題について多様な考えがもてるような内容のものを提示する。</p> <p>☆「森林を守る」を読むことで、自分なりの考えを深めていくことができるようにする。</p> <p>*集団で意見を伝え合うことで、自分の考えが深まるようにする。</p> <p>◇二つの文章をもとにして「環境問題」について、自分の考えをもっている。(ノート、発言)</p>
第三次	3	<p>○二つの教材を合わせて読んだことをもとに、環境問題に対する自分の考えを文章にまとめる。</p> <p>●書いたものを友達と読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>●学習を振り返る。</p>	<p>◇環境問題について、自分の考えをもち、友達との感じ方、考え方との共通点や相違点に気づいている。(ノート、交流)</p> <p>*自分の考えを構築するために、資料を効果的に活用したことを振り返るようにする。</p>

## 8 本時 (2/3)

### (1) 目標

主教材と「森林を守る」を合せて読み、環境問題について、自分の考えをもつ。

### (2) 展開

時間	学習内容・学習活動	手立て(*)研究主題に迫る手立て(☆) 期待される児童の姿口 評価・評価方法(◇)
導入	●本時のめあてを確認する。	
展開	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">環境問題について、自分の感じたことや考えをもとう。</p> <p>●前時までの学習をふり返る。</p> <p>●「森林を守る」を読んで、筆者の考えを確認する。</p> <p>●それぞれの筆者の考えを知った上で、もう一度主教材「わりばしを使わないようにしよう」を読み直す。</p> <p>●互いの考えを伝え合う。</p>	<p>*主教材について読み取ったことを、ノートを見直して振り返らせる。</p> <p>☆環境問題について多様な考えがもてるような内容のものを提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・わりばしを使わないことが、環境問題に対して良いこととは限らない。</p> <p>・森林に対して何もしないのではなく、森林に手を入れていかないといけない。</p> </div> <p>☆集団で意見を伝え合うことや、他の教材を読むことで、自分の考えが深まるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・間伐をし、森林に手を入れていくことが森林を守ることにつながるけれど、主教材で筆者が言っているように、身近なことで、できることを考えることも大切だ。</p> <p>・環境問題について考えていくためには、様々な情報を集め、自分たちにできることを考えることも必要だ。</p> </div>
まとめ	●本時を振り返り、自己評価をする。	◇二つの文章をもとにして「環境問題」について、自分の考えをもっている。(ノート)

わりばしを使わないようにしよう

鈴木 久美子

私は、三人の子どもを育てる主婦として、環境問題に強い関心があります。普通の主婦ですからできることには限りがありますが、日頃から環境を守るために自分にできることは何でもやろうと心がけています。

最近、特に心がけていることは、わりばしを使わないようにすることです。わりばしは使い捨てで便利な物ですが、その原材料は木です。私たちは自分たちの生活を便利にするために、大事な資源である木材を大量に使っているのです。

飲食店やコンビニエンスストアなどを中心に使用されているわりばしの国内使用量は、年間で約二百五十億膳ぜんにも上り、国民一人当たりでは、約二百膳ぜんを使っている計算になります。これだけのわりばしを作るために、たくさんばっさくの木が伐採されています。

日本は森林に恵まれた美しい国です。美しい景観を作るだけでなく、森林は水害や風害を防ぎ、きれいな水を川や湖に供給してくれます。私たちは日本の森林を守るために、木のむだづかいをやめなければならないと思います。

私は外食するときも、自分のはしを持って行き、わりばしを使わないようにしています。私が節約できる木材はわずかですが、みんながこのように心がけると、森林は守られるでしょう。

みなさんも、自分のはしを持ち歩いて、木の伐採ばっさくを防ぐように心がけましょう。

## 森林を守る

駒田 淳一（環境学者）

日本は森林の多い国で、国土の約三分の二が森林です。ですから森林を守ること  
は、日本の環境を守る上で大切なことです。森林を守るためには、森林を放置する  
のではなく、大切に手入れをしなくてはいけません。特に木を適度に伐採すること  
が必要です。

木は成長が速く、手入れをされない森林は、多くの木が混み合ってしまったまま  
すると、木の枝や葉が重なって、森林に日光が入らず、土地がやせ、木の根がしつ  
かりと張らず、土砂災害などが起きやすい森林になり、木もどんどん枯れてしま  
います。そこで、混み合ってきた森林の木々の一部を切り落とす作業を行うのです。  
これを、「間伐」といいます。間伐を行った森林は、日光が地表までとどき、木々  
が豊かに育つのです。

しかし、今、日本では、林業で働く人がだんだん減ってきており、手入れがされ  
ずに森林があるという問題がおきています。林業は現金収入が少ないため、林業  
につく人が少ないのです。林業の現金収入は間伐で出た端材を木工業者に売って得  
ますが、端材はあまり売れず、約六十％は捨てられています。端材を買い取った木  
工業者は、それを、わりばしやつまようじに加工して売っています。

これが日本の現状なのです。

## おわりに

副校長 武田 淳

2月中旬に文部科学省が小中学校の学習指導要領の改訂案を公表しました。本校がここ数年追求してきた思考力が育成すべき資質・能力の1つとして引き続き重視されることになり、学び方として「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められています。

本校でも、今年度、次期学習指導要領を睨みながら「思考力を高める」研究を進めてまいりました。研究授業に加え、事前授業であるB授業やOJT公開授業を全教員が行う中で、「主体的、対話的で深い学び」の視点から「思考力を高める」工夫を重ねてまいりました。そこには、子供たちが生き生きと話し合いをする姿、ICT機器を活用して課題に取り組む姿、子ども同士が教え合い学び合う姿がありました。まだまだ課題は残るところではありますが、教師にとって、また子どもにとっても講義型の授業ではない新しい学びへの第一歩を踏み出せたと実感しているところです。このような今年度の実績を踏まえ、来年度は、緑野中学校、北原小学校との小中連携教育研究指定校として「新しい学びの構築」をテーマに研究発表を行う予定です。

最後になりましたが、本研究に対しまして温かいご指導ご助言をくださいました東京女子体育大学 教授 田中 洋一先生に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

### ～研究に携わった教職員～

校長 駒崎 彰一		副校長 武田 淳		
学級担任		1組	2組	3組
	1年	瀬口 有見子	三井田 学	吉原 あつ子
	2年	川西 雄輝	◎渡邊 朱実	野上 悠
	3年	○阿久津 淳子	吉田 智美	
	4年	山岡 恭子	○田尻 佑樹	
	5年	吉田 真実	○見米 美喜子	
	6年	○安藤 亨	堀 真人	
専科等	(少人数) ○坂本 薫 (音楽) 北山 広美 (図工) 佐藤 ひろみ (養護教諭) 熊谷 頼子 (非常勤・音楽) 金田 文子 (特別支援教室専門員) 河野 順子 (学習指導支援員) 倉地 暁美 (講師) 山口 淑恵 (講師) 鈴木 美保 (講師) 田島 貴裕 (図書館指導) 中島 由理子 (介助員) 瀬賀 智恵子			
事務・校務主事 栄養士・業務委託	(事務) 岩堀 京子 (主査) 小高 伸明 (主事) 高塩 勉 (栄養士) 片山 博子 (業務委託) 渡邊 博明 曾根 美恵子			
さくらんぼルーム	(SC) 竹内 歩 (心の教室相談員) 町田 和美			

◎研究推進委員長

○研究推進委員